

(様式第10)

東医大発 第338号

令和 5年 10月 5日

厚生労働大臣 殿

開設者名 学校法人 東京医科大学  
理事長 矢崎 義雄

東京医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒160-8402 東京都新宿区新宿6-1-1
氏名	学校法人東京医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

東京医科大学病院
----------

3 所在の場所

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-7-1
電話 (03) 3342-6111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
<input type="radio"/>	1 呼吸器内科	<input type="radio"/>	2 消化器内科	<input type="radio"/>	3 循環器内科	<input type="radio"/>	4 腎臓内科
<input type="radio"/>	5 神経内科	<input type="radio"/>	6 血液内科		7 内分泌内科		8 代謝内科
	9 感染症内科		10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科	<input type="radio"/>			11 リウマチ科
診療実績							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

## (2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1 呼吸器外科	○	2 消化器外科	○	3 乳腺外科		4 心臓外科
	5 血管外科	○	6 心臓血管外科		7 内分泌外科	○	8 小児外科
診療実績							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

## (3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1 精神科	○	2 小児科	○	3 整形外科	○	4 脳神経外科
○	5 皮膚科	○	6 泌尿器科		7 産婦人科	○	8 産科
○	9 婦人科	○	10 眼科	○	11 耳鼻咽喉科	○	12 放射線科
○	13 放射線診断科	○	14 放射線治療科	○	15 麻酔科	○	16 救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

## (4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1 小児歯科	○	2 矯正歯科	○	3 歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。  
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療

## (5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	臨床検査科	2	形成外科	3	リハビリテーション科	4	病理診断科	5	糖尿病代謝内分泌内科
6	老年内科	7		8		9		10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

## 5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
19	0	0	0	885	904

(単位：床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	750	23.9	773.9
歯科医師	20	1.3	21.3
薬剤師	74	0.8	74.8
保健師	8	0	8
助産師	48	0.3	48.3
看護師	1,086	20.4	1,106
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	6	0	6
管理栄養士	27	0.8	27.8

職種	員数
看護補助者	62
理学療法士	20
作業療法士	6
視能訓練士	17
義肢装具士	0
臨床工学士	28
栄養士	0
歯科技工士	2
診療放射線技師	88

職種	員数	
診療エックス線技師	0	
臨床検査	臨床検査技師	137
	衛生検査技師	0
	その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0	
医療社会事業従事者	14	
その他の技術員	21	
事務職員	322	
その他の職員	21	

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	69	眼科専門医	14
外科専門医	48	耳鼻咽喉科専門医	12
精神科専門医	6	放射線科専門医	16
小児科専門医	28	脳神経外科専門医	9
皮膚科専門医	12	整形外科専門医	11
泌尿器科専門医	9	麻酔科専門医	21
産婦人科専門医	14	救急科専門医	14
		合計	283

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (山本 謙吾) 任命年月日 令和 3 年 9 月 1 日

医療安全管理委員会  
 委員長  
 2021年9月～継続中(病院長として)

院内病因死因(M&M)検討会委員  
 委員  
 2021年9月～継続中(病院長として)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計

1日当たり平均入院患者数	758 人	9.1 人	767.1 人
1日当たり平均外来患者数	2,515.9 人	123 人	2,638.9 人
1日当たり平均調剤数		1,818	剤
必要医師数		220.545	人
必要歯科医師数		8.15	人
必要薬剤師数		26	人
必要（准）看護師数		463	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。  
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

#### 10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
集中治療室	1437.97 m <sup>2</sup>	鉄骨造	病床数	32 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 178.99 m <sup>2</sup>		病床数	11	床	
	[移動式の場合] 台数 台					
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床面積 46.81 m <sup>2</sup>					
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	149.84 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備)	生化学自動分析装置全自動化学発光免疫測定装置		
細菌検査室	96.36 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備)	微生物感受性分析装置 血液培養全自動分析装置		
病理検査室	431.12 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備)	排気機能付切出しシンク、自動染色装置など		
病理解剖室	75.02 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備)	排気装置付L型解剖台など		
研究室	1,470.26 m <sup>2</sup>	鉄骨造	(主な設備)			
講義室	1,294.05 m <sup>2</sup>	鉄骨造	室数	14 室	収容定員	991 人
図書室	686.61 m <sup>2</sup>	鉄骨造	室数	1 室	蔵書数	132,516 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

#### 11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	82.5	%	逆紹介率	55.7	%
算出根拠	A：紹介患者の数		27,352		人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		20,404		人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		2,883		人
	D：初診の患者の数		36,640		人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況
落合 和徳	医療法人社団三成会 新百合ヶ丘総合病院 常勤顧問	○	医師としての実績と 医療安全に関する豊 富な実績と経験を持 ち合わせているため	無	1. 医療に係る安全管理又は 法律に関する識見を有する者 その他の学識経験を有する者
安原 幸彦	東京南部法律事務所 弁護士		弁護士として医療の 法律に関する豊富な 実績と経験を持ち合 わせているため	無	1. 医療に係る安全管理又は 法律に関する識見を有する者 その他の学識経験を有する者
桑原 公平	西新宿六丁目町会 会長		医療を受ける者とし て長年当院を受診さ れているため	無	2. 医療を受ける者その他の 医療従事者以外の者（1.に掲 げる者を除く。）

- （注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
  2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
  3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
大学・病院ホームページ	





(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	切除不能局所進行膵癌に対する高密度焦点式超音波療法	取扱患者数	8
当該医療技術の概要 切除不能局所進行膵癌に対する高密度焦点式超音波療法			
医療技術名	悪性十二指腸閉塞に対する超音波内視鏡下胃空腸吻合術	取扱患者数	2
当該医療技術の概要 悪性胃・十二指腸狭窄に対してHot AXIOSシステムを用いて超音波内視鏡下胃空腸吻合術を行う			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

その他の高度医療の種類合計数	2
取り扱い患者数の合計（人）	10



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	クッシング病	1
2	筋萎縮性側索硬化症	11	57	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	5
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	下垂体前葉機能低下症	45
4	進行性核上性麻痺	17	59	家族性高コレステロール血症（ホモ接合	2
5	パーキンソン病	195	60	甲状腺ホルモン不応症	1
6	大脳皮質基底核変性症	1	61	アジソン病	4
7	ハンチントン病	2	62	サルコイドーシス	88
8	シャルコー・マリー・トゥース病	1	63	特発性間質性肺炎	32
9	重症筋無力症	188	64	肺動脈性肺高血圧症	10
10	多発性硬化症／視神経脊髄炎	177	65	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
11	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	5	66	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	72
12	多系統萎縮症	11	67	リンパ管筋腫症	3
13	脊髄小脳変性症（多系統萎縮症を除く。）	19	68	網膜色素変性症	43
14	ミトコンドリア病	2	69	特発性門脈圧亢進症	1
15	もやもや病	10	70	原発性胆汁性胆管炎	15
16	進行性多巣性白質脳症	1	71	原発性硬化性胆管炎	5
17	HTLV-1関連脊髄症	1	72	自己免疫性肝炎	26
18	特発性基底核石灰化症	1	73	クローン病	35
19	全身性アミロイドーシス	1	74	潰瘍性大腸炎	132
20	神経線維腫症	10	75	好酸球性消化管疾患	11
21	天疱瘡	5	76	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
22	膿疱性乾癬（汎発型）	9	77	ルビンシュタイン・テイビ症候群	1
23	スティーヴンス・ジョンソン症候群	7	78	チャージ症候群	5
24	高安動脈炎	17	79	若年性特発性関節炎	2
25	巨細胞性動脈炎	16	80	非典型溶血性尿毒症症候群	1
26	結節性多発動脈炎	18	81	筋ジストロフィー	3
27	顕微鏡的多発血管炎	23	82	遺伝性周期性四肢麻痺	3
28	多発血管炎性肉芽腫症	16	83	脊髄空洞症	4
29	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	11	84	脊髄髄膜瘤	2
30	悪性関節リウマチ	9	85	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	1
31	バージャー病	15	86	痙攣重積型（二相性）急性脳症	4
32	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	87	ウエスト症候群	8
33	全身性エリテマトーデス	194	88	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	14
34	皮膚筋炎／多発性筋炎	50	89	スタージ・ウェーバー症候群	2
35	全身性強皮症	26	90	結節性硬化症	43
36	混合性結合組織病	7	91	色素性乾皮症	1
37	シェーグレン症候群	176	92	先天性魚鱗癬	1
38	成人スチル病	8	93	家族性良性慢性天疱瘡	1
39	再発性多発軟骨炎	2	94	類天疱瘡（後天性表皮水疱症を含む。）	8
40	ベーチェット病	109	95	特発性後天性全身性無汗症	3
41	特発性拡張型心筋症	31	96	弾性線維性仮性黄色腫	2
42	肥大型心筋症	49	97	マルファン症候群	14
43	再生不良性貧血	10	98	エーラス・ダンロス症候群	42
44	自己免疫性溶血性貧血	7	99	ウィルソン病	40
45	発作性夜間ヘモグロビン尿症	5	100	ウィリアムズ症候群	3
46	特発性血小板減少性紫斑病	39	101	クルーゾン症候群	1
47	血栓性血小板減少性紫斑病	3	102	多脾症候群	1
48	原発性免疫不全症候群	8	103	プラダー・ウィリ症候群	1
49	IgA腎症	109	104	ヌーナン症候群	1
50	多発性嚢胞腎	15	105	4p欠失症候群	4
51	黄色靱帯骨化症	8	106	22q11.2欠失症候群	1
52	後縦靱帯骨化症	9	107	単心室症	1
53	特発性大腿骨頭壊死症	27	108	三尖弁閉鎖症	1
54	下垂体性ADH分泌異常症	11	109	ファロー四徴症	3
55	下垂体性PRL分泌亢進症	3	110	両大血管右室起始症	1

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	エプスタイン病	1	166		
112	急速進行性糸球体腎炎	36	167		
113	抗糸球体基底膜腎炎	23	168		
114	一次性ネフローゼ症候群	5	169		
115	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	170		
116	紫斑病性腎炎	3	171		
117	間質性膀胱炎(ハンナ型)	22	172		
118	オスラー病	8	173		
119	閉塞性細気管支炎	2	174		
120	副甲状腺機能低下症	35	175		
121	偽性副甲状腺機能低下症	3	176		
122	家族性地中海熱	21	177		
123	高IgD症候群	1	178		
124	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・ア クネ症候群	6	179		
125	強直性脊椎炎	6	180		
126	骨形成不全症	1	181		
127	軟骨無形成症	4	182		
128	後天性赤芽球癆	1	183		
129	自己免疫性後天性凝固因子欠乏症	3	184		
130	胆道閉鎖症	2	185		
131	IgG4関連疾患	73	186		
132	黄斑ジストロフィー	14	187		
133	レーベル遺伝性視神経症	3	188		
134	若年発症型両側性感音難聴	8	189		
135	好酸球性副鼻腔炎	59	190		
136	カルニチン回路異常症	2	191		
137	遺伝性自己炎症疾患	1	192		
138	無虹彩症	1	193		
139	先天性気管狭窄症/先天性声門下狭窄症	1	194		
140	特発性多中心性キャスルマン病	4	195		
141	ハッチンソン・ギルフォード症候群	1	196		
142			197		
143			198		
144			199		
145			200		
146			201		
147			202		
148			203		
149			204		
150			205		
151			206		
152			207		
153			208		
154			209		
155			210		
156			211		
157			212		
158			213		
159			214		
160			215		
161			216		
162			217		
163			218		
164			219		
165			220		

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	141
合計患者数(人)	2,816

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（基本診療料）

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算1
・歯科外来診療環境体制加算	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科診療特別対応連携加算	・データ提出加算2 イ
・特定機能病院入院基本料（一般：7対1、精神：13対1） ・注11 入院栄養管理体制加算	・入退院支援加算1・3 ・注7 入院時支援加算 ・注8 総合機能評価加算
・救急医療管理加算	・認知症ケア加算1
・超急性期脳卒中加算	・せん妄ハイリスク患者ケア加算
・診療録管理体制加算1	・精神科急性期医師配置加算2イ
・医師事務作業補助体制加算1 40対1	・排尿自立支援加算
・急性期看護補助体制加算 25対1（看護補助者5割以上） ・夜間急性期看護補助体制加算 100対1・夜間看護体制加算	・地域医療体制確保加算
・看護職員夜間配置加算 12対1イ	・救命救急入院料4 ・注6 小児加算 ・注9 早期栄養介入管理加算
・看護補助加算 13対1	・特定集中治療室管理料 1 ・注2 小児加算 ・注4 早期離床・リハビリテーション加算 ・注5 早期栄養介入管理加算
・療養環境加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・重症者等療養環境特別加算	・小児入院医療管理料1 ・注2 ブレイルーム加算 ・注5 無菌製剤治療管理加算1 ・注7 養育支援体制加算
・無菌治療室管理加算1	・摂食障害入院医療管理加算
・緩和ケア診療加算	・精神疾患診療体制加算
・精神科身体合併症管理加算	・入院時食事療養（1）
・精神科リエゾンチーム加算	・情報通信機器を用いた診療に係る基準
・栄養サポートチーム加算	・放射線治療室管理加算（治療用放射性同位元素による場合）
・医療安全対策加算1	・重症患者初期支援充実加算
・感染対策向上加算1 ・指導強化加算	・看護職員処遇改善評価料 70
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・呼吸ケアチーム加算	
・後発医薬品使用体制加算2	

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等（特掲診療料）

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
・遠隔モニタリング加算（ペースメーカー指導管理料）	・遺伝学的検査
・糖尿病合併症管理料	・BRCA 1/2遺伝子検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・がん患者指導管理料イ	・先天性代謝異常症検査
・がん患者指導管理料ロ	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
・がん患者指導管理料ハ	・ウイルス・細菌核酸多項目同時検出
・がん患者指導管理料ニ	・検体検査管理加算（Ⅰ）
・外来緩和ケア管理料	・検体検査管理加算（Ⅳ）
・移植後患者指導管理料（造血幹細胞移植後）	・国際標準検査管理加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・遺伝カウンセリング加算
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・婦人科特定疾患治療管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・院内トリアージ実施料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・外来放射線照射診療料	・ヘッドアップティルト試験
・ニコチン依存症管理料	・静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん治療連携計画策定料	・光トポグラフィー
・外来排尿自立指導料	・神経学的検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・補聴器適合検査
・薬剤管理指導料	・黄斑局所網膜電図及び全視野精密網膜電図
・医療機器安全管理料1	・ロービジョン検査判断料
・医療機器安全管理料2	・コンタクトレンズ検査料1
・医療機器安全管理料（歯科）	・小児食物アレルギー負荷検査
・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料	・内服・点滴誘発試験
・持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定	・精密触覚機能検査

・画像診断管理加算1	・腫瘍脊椎骨全摘術
・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	・原発性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・CT撮影及びMRI撮影	・脊髄刺激装置植込術及び脊椎刺激装置交換術
・冠動脈CT撮影加算	・角膜移植術（内皮移植加算）
・心臓MRI撮影加算	・羊膜移植術
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
・外来化学療法加算1	・緑内障手術（水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
・無菌製剤処理料	・網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いるもの）
・心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）	・網膜再建術
・脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）	・人工中耳植込術
・運動器リハビリテーション料（Ⅰ）	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型（拡大副鼻腔手術）及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術（頭蓋底郭清、再建を伴うもの）
・呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）	・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）、鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）及び鏡視下喉頭悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・がん患者リハビリテーション料	・鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
・集団コミュニケーション療法料	・喉頭形成手術（甲状軟骨固定用器具を用いたもの）
・歯科口腔リハビリテーション料2	・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療以外の診療に係るものに限る。）
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）	
・エタノールの局所注入（甲状腺）	・上顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）、下顎骨形成術（骨移動を伴う場合に限る。）（歯科診療に係るものに限る。）
・エタノールの局所注入（副甲状腺）	
・人工腎臓（慢性維持透析を行った場合1）	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及び乳がんセンチネルリンパ節生検（併用）
・透析水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））
・CAD/CAM冠及びCAD/CAMインレー	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
・歯科技工加算1及び2	・胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・皮膚悪性腫瘍切除術（センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。）	・胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・皮膚移植術（死体）	・胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。）	・内視鏡下筋層切除術
・処理骨再建加算	・食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）及び膈腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）
・骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）	
・後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）	
・椎間板内酵素注入療法	・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）

・胸腔鏡下弁形成術及び胸腔鏡下弁置換術	・腹腔鏡下仙骨膣固定術
・経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的大動脈弁置換術）	・腹腔鏡下仙骨膣固定術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・経皮的中隔心筋焼灼術	・腹腔鏡下膣式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。）
・両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに限る。）
・植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡下手術用支援機器を用いる場合）
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）	・胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）（医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術）
・大動脈バルーンパンピング法（IABP法）	・輸血管管理料（Ⅰ）
・経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）	・輸血適正使用加算
・補助人工心臓	・自己生体組織接着剤作成術
・経皮的下肢動脈形成術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・歯周組織再生誘導手術
・胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・腹腔鏡下肝切除術	・口腔粘膜血管腫凝固術
・体外衝撃波膵石破砕術	・レーザー機器加算
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・麻酔管理料（Ⅰ）
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・麻酔管理料（Ⅱ）
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・外来放射線治療加算
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・1回線量増加加算
・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	・強度変調放射線治療（IMRT）
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・画像誘導放射線治療加算（IGRT）
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）	・定位放射線治療
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・画像誘導密封小線源治療加算	・口腔病理診断管理加算2
・保険医療機関間の連携による病理診断	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・病理診断管理加算2	・歯科矯正診断料

・膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）	・腎代替療法指導管理料
・コーディネート体制充実加算	・静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）
・脳刺激装置植込術及び脳刺激交換術	・外来栄養食事指導料の注2に規定する基準
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）	・一般不妊治療管理料
・導入期加算2及び腎代替療法実積加算	・生殖補助医療管理料1
・二次性骨折予防継続管理料1	・外来腫瘍化学療法診療料1
・二次性骨折予防継続管理料3	・連携充実加算
・下肢創傷処置管理料	・在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
・染色体検査の注2に規定する絨毛染色体検査	・癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を行うもの）
・骨髄微小残存病変量測定	・舌下神経電気刺激装置植込術
・抗アデノ随伴ウイルス9型（AAV9）抗体	・角結膜悪性腫瘍切除術
・前立腺針生検法（MRI撮影及び超音波検査融合画像によるもの）	・緑内障手術（流出路再建術（眼内法）
・児童思春期精神科専門管理加算	・緑内障手術（濾過胞再建術（needle法））
・難治性抗コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するLDLアフェレシス療法	・経外耳的内視鏡下鼓室形成術
・内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術	・内喉頭筋内注入術（ボツリヌス毒素によるもの）
・植込型骨導補聴器（直接振動型）植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・不整脈手術（左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの））
・終夜睡眠ポリグラフィー（安全精度管理下で行うもの）	・不整脈手術（左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの））
・頭頸部悪性腫瘍光線力学療法	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
・胸腔鏡下拡大胸腺摘出術（内視鏡下手術用支援機器を用いる場合）	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で、内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超えるもので、内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・内視鏡的逆流防止粘膜切除術
・胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）	・腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））
・経皮的僧帽弁クリップ術	・腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））
・腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））	・腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
・腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの）	・膀胱頸部形成術（膀胱頸部吊上術以外）、埋没陰茎手術及び陰嚢水腫手術（鼠径部切開によるもの）
・腹腔鏡下総胆管拡張症手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術
・腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）	・体外式膜型人工肺管理料
・腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）	・子宮附属器腫瘍摘出術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する子宮附属器腫瘍摘出術）
・内視鏡的小腸ポリープ切除術	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	エキスパートパネル：月4回、皮膚科カンファレンス：週1回、乳腺科カンファレンス：週1回、リンパ腫カンファレンス：年3回、腎生検カンファレンス：年4回、CPC：年10回	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	22
	剖検率(%)	2.70%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。



## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
モデルマウスを用いた孤発性筋萎縮性側索硬化症の上位運動ニューロン障害の原因解明	日出山 拓人	神経学	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
低酸素下にある慢性骨髄性白血病幹細胞に対する新規治療法の構築	岡部 聖一	血液内科学	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
認知症治療における睡眠障害治療からのアプローチ —オレキシン作動系の重要性—	清水 聡一郎	高齢総合医学	130,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
睡眠の問題の改善による アブセンティズム・プレゼンティズムの改善	志村 哲祥	精神医学	520,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒト微生物叢と代謝物質の相互作用に着目したアスピリン性腸粘膜傷害のメカニズム解明	河合 隆	消化器内視鏡学	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒト胃幹細胞の腸上皮化生・胃癌起源細胞へのガストリン依存性転化機序の解析	新倉 量太	消化器内視鏡学	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
完全自家血管新生療法における間葉系細胞培養に係るシグナル伝達に関する検討	福田 尚司	心臓血管外科学	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
NCDデータを利用した急性大動脈解離外科治療の全国規模実態調査研究	荻野 均	心臓血管外科学	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
敗血症性脳症誘発機序とシクロフィリンD情報伝達系の連関及びMPT孔構造解析の試み	内野 博之	麻酔科学	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
屈筋腱・腱鞘障害に対する機能再建法の開発：生体工学的観点から	西田 淳	整形外科学	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
黄熱ワクチン接種の効果に関する研究	福島 慎二	渡航者医療センター	650,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
口腔機能低下症およびロコモティブシンドロームと動脈硬化の関連	松本 知沙	健診予防医学センター	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
入院が高齢者の栄養・認知・体力に及ぼす影響	佐藤 友彦	高齢総合医学	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
複合セラミック製人工股関節の耐用性検証とその予測精度向上を目指した新たな提言	高橋 康仁	骨・関節バイオマテリアル研究寄附講座	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
不可逆電気穿孔法による免疫賦活効果を応用した新規がん治療法の開発	杉本 勝俊	消化器内科学	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ALK陽性ALCLにおけるTP53欠失が与える臨床的影響の解明と層別化治療の構築	片桐 誠一郎	血液内科学	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
進行再発大腸癌診断におけるメタボロームを用いた新規マーカーの開発	勝又 健次	消化器・小児外科学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
うつ病発症におけるレジリアンスの役割に関する研究	井上 猛	精神医学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
腸内細菌叢と薬物動態を考慮した直接経口抗凝固薬の出血リスク層別化システムの確立	杉本 光繁	消化器内視鏡学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
UV照射で可逆的に拡張・収縮する胆道ドレナージステントの創製	殿塚 亮祐	消化器内科学	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
半永久開存性を示すradioactiveなハイドロゲル胆管ステントの創製	土屋 貴愛	消化器内科学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
若年性僧帽弁逸脱症における3次元的形態異常とその病因遺伝子バリエントに関する検討	武井 康悦	循環器内科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ハイリスクグループの肥大型心筋症における病態形成機序の解明	稲垣 夏子	循環器内科学	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
第VIII因子の半減期に関わる遺伝子多型の解析と応用	稲葉 浩	臨床検査医学	2,080,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
がん関連血栓症に対するニューロキニン1受容体スプライスバリエント発現の影響の検討	濱田 宏	麻酔科学	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
麻酔薬による脳保護あるいは脳障害作用のメカニズム解明	柴田 勝一郎	麻酔科学	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
培養細胞を用いた機械的肺障害モデルにおけるaquaporinの役割と治療の検討	石井 友理	救急・災害医学	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
色彩工学を加味した『医療用tattooを用いた乳輪色素の再建』の基盤確立	小宮 貴子	形成外科学	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
高度架橋ポリエチレン製人工股関節の超長期耐用性の実現を目指した材料設計の最適化	立岩 俊之	整形外科	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
前頭前野被刺激反応による依存症としての真のゲーム障害の特定および診断スコアの開発	呉 宗憲	小児科・思春期科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
内視鏡外科手術における教育評価システム開発に向けた手術効率性分析	永川 裕一	消化器・小児外科学	2,860,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
代謝を介した腫瘍免疫機構の解析に基づいた骨髄腫予後因子同定と治療層別化の探索	田中 裕子	血液内科学	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
広範なライフステージで糖尿病が認知機能に与える影響の解明	鈴木 亮	糖尿病・代謝・内分泌内科学	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
専門的口腔ケアによる心不全患者の予後改善効果に関する検討	椎名 一紀	循環器内科学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
COPD病態におけるオートファジーとガレクチン8の役割の全体像の解明	河野 雄太	呼吸器内科学	1,950,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
カベオラ介在性アルブミンエンドサイトーシス阻害による普遍的なCKD治療薬の探索	森山 能仁	腎臓内科学	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
乾癬の病態形成におけるTGF-βシグナルの役割	大久保 ゆかり	皮膚科学	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
Bcr-Ablチロシンキナーゼ阻害薬外用剤におけるアトピー性皮膚炎の治療効果	伊藤 友章	皮膚科学	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
メタボローム解析を用いた肝転移切除後の再発予測バイオマーカーの探索	石崎 哲央	消化器・小児外科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
小細胞肺癌における神経変性疾患関連分子の役割の解明と新規個別化治療への応用	嶋田 善久	呼吸器・甲状腺外科学	1,950,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
プロポフォール注入症候群の発症メカニズムの解明	松本 りか	麻酔科学	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
冷凍保存法と飽和食塩溶液固定法を用いたブタ臓器による外傷手術手技研修の開発応用	本間 宙	救急・災害医学	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ブタ臓器を用いたACS領域の腹腔鏡手術手技研修システムの開発	谷野 雄亮	救急・災害医学	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ペリサイト制御とアポトーシス抑制によるけいれん重積型急性脳症への新規治療薬の開発	山中 岳	小児科・思春期科学	1,040,000	補	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
新規治療戦略				委	
悪性頭蓋内腫瘍に対する光ファイバーを用いた光線力学的療法の開発	深見 真二郎	脳神経外科学	1,950,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
後縦靭帯骨化症における異所性骨化制御の分子機構の解明	松岡 佑嗣	整形外科学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
尿中miRNAを用いた尿路上皮癌に対する免疫治療効果予測バイオマーカーの開発	平澤 陽介	泌尿器科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
子宮筋腫と不妊症に対する産婦人科時間生物学の応用	小野 政徳	産科婦人科学	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
母体糖尿病が児にもたらす神経発達障害の腸内細菌叢を用いた新規バイオマーカーの探索	佐々木 順子 (島順子)	糖尿病・代謝・内分泌内科学	2,340,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ドラッグリポジショニングによる眼部悪性腫瘍の新規治療法の開発	後藤 浩	眼科学	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
人工知能とオミックス解析を用いたぶどう膜炎の新規診断法の開発	臼井 嘉彦	眼科学	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
抗エストロゲン作用に着目した被膜拘縮予防法の開発	石川 孝	乳腺科学	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
癒痕組織、老化皮膚への弾性繊維の誘導	井田 夕紀子	形成外科学	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
顎骨周囲軟組織変性をターゲットにした新たなMRONJ発症関連因子の探索	河野 通秀	口腔外科学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
破骨細胞由来エクソソーム解析による薬剤関連顎骨壊死発症メカニズム解明への挑戦	近津 大地	口腔外科学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
低体力者下腿切断に対する脚運動モデルの効果検証-切断肢運動循環と骨格筋代謝から-	長田 卓也	リハビリテーションセンター	3,510,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
3T-MRI頭頸部画像でリンパ節転移の自動診断人工ニューラルネットワークの開発	勇内山 大介	放射線医学	520,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
脳組織酸素代謝を指標とした新しい早産児管理法の確立	奈良 昇乃助	小児科・思春期科学	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
膵癌集学的治療のモニタリングに有用なリポドームマーカーの探索	中川 暢彦	消化器・小児外科学	130,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
敗血症関連脳症の機序解明およびグルタミンによる抗酸化作用関与の解析	小林 賢礼	麻酔科学	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
脳内炎症伝播の司令塔ペリサイトから「熱性けいれんのでんかん原性」に挑む	森地 振一郎	小児科・思春期科学	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
包括的経過からみる精神科訪問診療の意義・役割・限界 ―初診から転帰までの解析	岩谷 潤	精神医学	650,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
日本における精神医療改革の実装科学研究を用いた政策評価	本屋敷 美奈	精神医学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
海外の高所観光地に滞在する旅行者の高山病対策に関する研究	栗田 直	渡航者医療センター	780,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
4D-CTと呼吸機能検査を用いた放射線肺臓炎の定量化と呼吸機能変化予測	糸永 知広	放射線医学	130,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
人工知能のバイオシミュレーションによる膵癌細胞機能の解明と個別化療法への応用	向井 俊太郎	消化器内科学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
胃がんにおける自律神経の分布が予後にもたらす影響について	岩崎 謙一	消化器・小児外科学	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
心停止後脳障害の機序解明およびミトコンドリア移植による新規脳保護戦略の開発	長島 史明	麻酔科学	1,690,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
CRISPR libraryを用いた 卵巣癌プロモーター制御 による新規治療法の検討	山本 阿紀子	産科婦人科学	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
薬剤関連顎骨壊死を解明 するー高感度量子ビーム を用いた挑戦	田村 知子	口腔外科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
骨免疫学的アプローチに よるインプラント周囲炎 の新規治療法の基礎的 研究	濱田 勇人	口腔外科学	1,170,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
新規チェルビズムモデル マウスの確立と顎骨病変 の発症メカニズムの解明	藤居 泰行	口腔外科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
中高年者由来ヒト歯髄幹 細胞を用いた新規歯槽骨 再生療法の前臨床研究	佐藤 麻梨香	口腔外科学	1,820,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
マルチモダリティ4D気道 評価による睡眠時無呼吸 症に対する定量的タイト レーション法	池畑 直樹	口腔外科学	1,300,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
小細胞肺癌における代 謝の変化と画像診断、放 射線治療との関係	岡田 幸法	放射線医学	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
AI形態解析とリンパ節転 移関連遺伝子解析の統合 化による肺扁平上皮癌悪 性化機構解明	大森 智一	呼吸器・甲状腺外科 学	3,640,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
人工知能を用いた画像解 析により頸椎OPLLの診断 は可能か	小西 隆允	整形外科	1,560,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
幹細胞を用いた妊娠高血 圧症候群への病態アプ ローチ	小島 淳哉	産科婦人科学	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒトOMIGTにおけるAIを用 いた神経発達症新規バイ オマーカーの検索	佐々木 徹	産科婦人科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
活性イオウ分子種に着目 したがん化学療法誘発口 腔粘膜炎の新規治療薬の 開発	金子 児太郎	口腔外科学	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
炎症性骨破壊におけるプロテアーゼによる破骨細胞分化促進作用の解析	杉崎 リサ	口腔外科学	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
集中治療室における超音波診断装置を用いた新たな呼吸理学療法評価の確立と効果検証	直井 俊祐	リハビリテーションセンター	3,510,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
エイズ対策研究事業の企画と評価に関する研究	天野 景裕	臨床検査医学	3,250,000	補 委	厚生労働省
国内未承認エイズ治療薬等を用いた HIV 感染症治療薬及び HIV 感染症至適治療法の開発に係る応用研究	天野 景裕	臨床検査医学	100,000,000	補 委	厚生労働省
HIV感染者を含む血友病患者の高齢化に伴う新たな合併症に関する研究	木内 英	臨床検査医学	10,551,000	補 委	厚生労働省
実践的な手術手技向上研修事業	本間 宙	救急・災害医学	7,108,000	補 委	厚生労働省
インターロイキン27を介した腸管免疫制御による糖代謝の基盤的研究	諏訪内 浩紹	糖尿病代謝内分泌内科学	2,000,000	補 委	公益財団法人 日本糖尿病財団
喫煙と消化管マイクロバイオームの相互作用から紐解く動脈硬化性疾患発症メカニズム	永田 尚義	消化器内視鏡学	2,000,000	補 委	公益財団法人 喫煙科学研究財団
サルコイドーシス患者における硝子体液を用いた網羅的miRNA解析による新規バイオマーカーの探索	朝蔭 正樹	眼科学	1,000,000	補 委	公益財団法人 日本応用酵素協会
放射線治療後の聴神経腫瘍における神経変性機構の解明	松島 健	脳神経外科学	500,000	補 委	公益財団法人 上原記念生命科学財団
胃内細菌をバイオマーカーとした胃発癌リスク層別化と化学療法反応性予測に関する研究開発	新倉 量太	消化器内視鏡学	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
Stage II大腸癌に対する術後補助化学療法の有用性に関する研究	勝又 健次	消化器・小児外科学	260,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
がん遺伝子MYCの転写を標的とした治療薬の開発	山田 哲司	消化器・小児外科学	86,450,000	補 ①委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
インフルエンザ監視・応答システム(GISRS)と連携した国内RSウイルスサーベイランスシステムの構築と重症化メカニズムの病態解明	河島 尚志	小児科・思春期科学	16,950,000	補 ①委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
昆虫媒介性ウイルス感染症の世界的流行状況に基づく我が国の総合的対策に資する開発研究	濱田 篤郎	渡航者医療センター	1,950,000	補 ①委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
ヒト微生物叢を介した腸管免疫応答から紐解くHIV感染者の非AIDS関連がんの発症機序	永田 尚義	消化器内視鏡学	9,750,000	補 ①委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構
血友病合併HIV/HCV重複感染に起因する肝硬変に対する抗線維化治療薬の開発	四本 美保子	臨床検査医学	1,300,000	補 ①委	国立研究開発法人 日本医療研究開発 機構

計 97件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	【資料1】				Original Article
2					Case report
3					Review
4					Letter
5					Others
6					
～					
70					
～					

計 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）；巻数：該当ページ」の形式で記載すること（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）。  
記載例： Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec（オンライン）
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Tamami M	薬理学分野	The Patterning and Proportion of Charged Residues in the Arginine- Rich Mixed-Charge Domain Determine the Membrane-Less Organelle Targeted by the Protein.	Int J Mol Sci. 2022 Jul 11;23(14):7658. doi: 10.3390/ijms23147658. PMID: 35887012; PMCID: PMC9324279	Original Article
2	Kohsuke K	薬理学分野	Chemically oligomerizable TDP-43: a novel chemogenetic tool for studying the pathophysiology of amyotrophic lateral sclerosis.	Neural Regen Res. 2022 Nov;17(11):2434-2436. doi: 10.4103/1673-5374.335803. PMID: 35535888; PMCID: PMC9120673.	Review
3	Kohsuke K	薬理学分野	How can we interpret the relationship between liquid- liquid phase separation and amyotrophic lateral sclerosis?	Lab Invest. 2022 Sep;102(9):912-918. doi: 10.1038/s41374-022-00791-x. Epub 2022 Apr 22. PMID: 35459796.	Review
4	Kohsuke K	薬理学分野	Order controls disordered droplets: structure-function relationships in C9ORF72-derived poly(PR).	Am J Physiol Cell Physiol. 2022 Feb 1;322(2):C197-C204. doi: 10.1152/ajpcell.00372.2021. Epub 2021 Dec 15. PMID: 34910602.	Review
5	Kohsuke K & Masahiko K	分子病理学分野	How can we interpret the relationship between liquid-liquid phase separation and amyotrophic lateral sclerosis?	Lab Invest. 2022 Sep;102(9):912-918. doi: 10.1038/s41374-022-00791-x. Epub 2023 Jan 4.	Original Article
6	Shin-Ichiro O	分子病理学分野	Nuclear microRNAs release paused Pol II via the DDX21-CDK9 complex.	Cell Reports 2022 Apr 12;39(2):110673. doi: 10.1016/j.celrep.2022.110673.	Original Article
7	Keisuke G	人体病理学分野	Large Cell Neuroendocrine Carcinoma of the Skin/Conjunctiva: A Series of 6 Cases including 1 Combined Case With Squamous Cell Carcinoma	Am J Dermatopathol 44(10):718-727	Original Article
8	Yusuke S	心臓血管外科学分野	Balloon pulmonary angioplasty followed by pulmonary endarterectomy: Combination treatment for high-surgical-risk patients with chronic thromboembolic pulmonary hypertension	Interdisciplinary CardioVascular and Thoracic Surgery 2023, 36(3), ivad031	Original Article
9	Yusuke S	心臓血管外科学分野	Efficacy of Off-Pump Coronary Artery Bypass Grafting With Concomitant Transcatheter Aortic Valve Replacement	Heart, Lung and Circulation Volume31 issue 12 December 2022, Pages 1666-1676	Original Article
10	Yu N	心臓血管外科学分野	Successful hybrid repair for ruptured abdominal aortic aneurysm caused by type IIIa endoleak resulting from a disconnected contralateral limb	J Vasc Surg Cases Innov Tech. 2022 Jul 4;8(3):417-420.	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
11	Hitoshi O	心臓血管外科学分野	Comparative study of Japanese frozen elephant trunk device for open aortic arch repairs	J Thorac Cardiovasc Surg. 2022 Dec;164(6):1681-1692. e2.	Original Article
12	Masaki K	心臓血管外科学分野	Association of High-Sensitivity C-Reactive Protein With Aneurysm Sac Shrinkage in Patients Undergoing Endovascular Abdominal Aneurysm Repair	J Endovasc Ther. 2022 Dec;29(6):866-873.	Original Article
13	Masaki K	心臓血管外科学分野	Aortic repair following initial decompressive craniectomy for acute type A aortic dissection complicated with extensive hemorrhagic cerebral infarction: a case report	Surg Case Rep. 2022 Sep 19;8(1):172.	Case report
14	Toshiya N	心臓血管外科学分野	The Presence of Simple Renal Cysts Is Associated With Increased Arterial Stiffness in Patients With Abdominal Aortic Aneurysm	Angiology. 2022 Oct;73(9):863-868.	Original Article
15	Toshiya N	心臓血管外科学分野	Association of neutrophils, lymphocytes, and neutrophil-lymphocyte ratio to overall mortality after endovascular abdominal aortic aneurysm repair	Int Angiol. 2022 Apr;41(2):136-142	Original Article
16	Toshiya N	心臓血管外科学分野	Association of lower limb ischemia with loss of skeletal muscle mass in patients with peripheral artery disease	Surge Today. 2022 Nov;52(11):1576-1581	Original Article
17	Satoshi T	心臓血管外科学分野	Correction to: Type IIIb endoleak due to stent suture line fabric breakage in the Endurant stent graft: a case report	Surg Case Rep. 2022 Apr 19;8(1):72.	Case report
18	Koki M	心臓血管外科学分野	Extended Aortic Repair for Acute Type A Aortic Dissection with Rupture and Malperfusion Complicated with Ehlers-Danlos Syndrome	Ann Vasc Dis. 2022 Jun 25;15(2):157-160.	Case report
19	Yoshimasa S	心臓血管外科学分野	Differences of mid-term outcomes in debranching thoracic endovascular aortic repair between zone 0 and zone 1-2 landing	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2023 Jan;71(1):59-66	Original Article
20	Yoshimasa S	心臓血管外科学分野	Nationwide Analysis of Persistent Type II Endoleak and Late Outcomes of Endovascular Abdominal Aortic Aneurysm Repair in Japan: A Propensity-Matched Analysis	Circulation. 2022 Apr 5;145(14):1056-1066.	Original Article
21	Yoshimasa S	心臓血管外科学分野	The differences in surgical long-term outcomes between Marfan syndrome and Loeys-Dietz syndrome	J Thorac Cardiovasc Surg. 2022 Jul;164(1):16-25. e2.	Original Article
22	Yoshimasa S	心臓血管外科学分野	Aggressive use of prophylactic cerebrospinal fluid drainage to prevent spinal cord ischemia during thoracic endovascular aortic repair is not supportive	Eur J Cardiothorac Surg. 2022 Nov 3;62(6):ezac441.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
23	Yoshimasa S	心臓血管外科学分野	Long-term durability of a reimplantation valve-sparing aortic root replacement can be expected in both Marfan syndrome and Loeys-Dietz syndrome	Eur J Cardiothorac Surg. 2022 May 27;61(6):1318-1325.	Original Article
24	Yoshimasa S	心臓血管外科学分野	The blood sugar level can predict preoperative shock in patients with a ruptured abdominal aortic aneurysm even when the patient's condition appears stable	Surg Today. 2022 Apr;52(4):595-602.	Original Article
25	Yamamoto K	消化器内科学分野	Optimal mode and power output of electrosurgical units for endoscopic papillectomy based on animal experiments and a preliminary clinical study (with videos)	Gastrointest Endosc 95(4): 760-776, 2022	Original Article
26	Naito S	消化器内科学分野	Long-term outcomes of esophageal squamous cell carcinoma with invasion depth of pathological T1a-muscularis mucosae and T1b-submucosa by endoscopic resection followed by appropriate additional treatment	Dig Endosc 34(4): 793-804, 2022	Original Article
27	Koyama Y	消化器内科学分野	Diagnostic efficacy of the Japan NBI Expert Team classification with dual-focus magnification for colorectal tumors	Surg Endosc 36(7): 5032-5040, 2022	Original Article
28	Furuichi Y	消化器内科学分野	Lusutrombopag has slightly stronger effects on patients with mild thrombocytopenia compared with those with severe thrombocytopenia; A multicenter propensity score matching study	J Hepatobiliary Pancreat Sci 29(4): 439-448, 2022	Original Article
29	Gobinet-Suguro M	消化器内科学分野	Treatment strategies for reducing early and late recurrence of colonic diverticular bleeding based on stigmata of recent hemorrhage: A large multicenter study	Gastrointest Endosc 95(6): 1210-1222. e12, 2022	Original Article
30	Furuichi Y	消化器内科学分野	Liver and spleen stiffness on ultrasound elastography are predictors of the occurrence of esophagogastric varices after balloon-occluded retrograde transvenous obliteration	J Hepatobiliary Pancreat Sci 29(6): 713-722, 2022	Original Article
31	Koyama Y	消化器内科学分野	New scoring system to distinguish deep invasive submucosal and muscularis propria colorectal cancer during colonoscopy: a development and global multicenter external validation study (e-T2 Score)	Gastrointest Endosc 96(2): 321-329. e2, 2022	Original Article
32	Mukai S	消化器内科学分野	Experimental study of a physician-controlled electrocautery-enhanced delivery system incorporating a newly developed lumen-apposing metal stent for interventional endoscopic ultrasound (with videos)	J Hepatobiliary Pancreat Sci 29(7): 817-824, 2022	Original Article
33	Yamaguchi H	消化器内科学分野	Prediction of depth of invasion and lymph node metastasis in superficial pharyngeal cancer by magnifying endoscopy using the Japan Esophageal Society classification	DEN open 3(1): e151, 2022 (オンライン)	Original Article
34	Sugimoto K	消化器内科学分野	Comparison of modified CEUS LI-RADS with sonazoid and CT/MRI LI-RADS for diagnosis of hepatocellular carcinoma	Hepatol Res 52(8): 730-738, 2022	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文 種別
35	Kagawa Y	消化器内科学分野	Validation of the BEST-J score, a prediction model for bleeding after endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer: a multicenter retrospective observational study	Surg Endosc 36(10): 7240-7249, 2022	Original Article
36	Yamaguchi H	消化器内科学分野	Efficacy of endoscopic clip closure for nonperforated muscle layer exposure during esophageal endoscopic submucosal dissection	Dis Esophagus 35(10): doac009, 2022 (オンライン)	Original Article
37	Koyama Y	消化器内科学分野	Visibility of early gastric cancers by texture and color enhancement imaging using a high-definition ultrathin transnasal endoscope	Sci Rep 13(1): 1994, 2023 (オンライン)	Original Article
38	Wada T	消化器内科学分野	Comparisons of radiofrequency ablation, microwave ablation, and irreversible electroporation by using propensity score analysis for early stage hepatocellular carcinoma	Cancers (Basel) 15(3): 732, 2023 (オンライン)	Original Article
39	Kojima H	消化器内科学分野	Efficacy of shear wave elastography for the diagnosis of chronic pancreatitis	J Hepatobiliary Pancreat Sci 30(3): 351-359, 2023	Original Article
40	Tonozuka R	消化器内科学分野	A novel peroral digital cholangioscope with a large accessory channel: an experimental study	J Hepatobiliary Pancreat Sci 30(3): 401-407, 2023	Original Article
41	Matsumoto T	消化器内科学分野	Targeted metabolomic profiling of plasma samples in gastric cancer by liquid chromatography-mass spectrometry	Digestion 104(2): 97-108, 2023	Original Article
42	Takeuchi H	消化器内科学分野	The usefulness of a newly developed full-core biopsy needle in liver biopsy	Hepatol Res 53(3): 247-257, 2023	Original Article
43	Matsunami Y	消化器内科学分野	Objective evaluation of the resistance forces of 22-gauge EUS-FNA and fine-needle biopsy needles	Endoscopic Ultrasound 12(2): 251-258, 2023	Original Article
44	Yamamoto K	消化器内科学分野	Endoscopic papillectomy for tumors of the minor duodenal papilla: A case series of six patients and literature review	J Hepatobiliary Pancreat Sci 29(10): 1142-1150, 2022	Review
45	Sofuni A	消化器内科学分野	High-intensity focused ultrasound therapy for pancreatic cancer	J Med Ultrason (2001). 2022 May 12. (オンライン)	Review
46	Sofuni A	消化器内科学分野	Current status and future perspective of sonodynamic therapy for cancer	J Med Ultrason (2001). 2022 Oct 12. (オンライン)	Review

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
47	Mukai S	消化器内科学分野	Urgent and emergency ERCP for gallstone-induced acute cholangitis and pancreatitis	Dig Endosc 35(1): 47-57, 2023	Review
48	Tsuchiya T	消化器内科学分野	Successful EUS-guided gastrojejunostomy with very long-term patency for duodenal obstruction after severe acute pancreatitis	J Hepatobiliary Pancreat Sci 29(6): e59-e60, 2022	Case report
49	Yamamoto K	消化器内科学分野	Stent placement using the EUS-guided pancreatic duct drainage rendezvous technique for pancreatic ductal stenosis after endoscopic papillectomy	J Hepatobiliary Pancreat Sci 29(4): e19-e21, 2022	Case report
50	Honda H	消化器内科学分野	Two cases of hemorrhagic ampullary lesions successfully treated by endoscopic papillectomy	Intern Med 61(12): 1843-1848, 2022	Case report
51	Tonozuka R	消化器内科学分野	Long-term precautions after endoscopic ultrasound-guided transmural drainage for pancreatic fluid collection	J Hepatobiliary Pancreat Sci 29(5): e39-e40, 2022	Case report
52	Ryozawa R	消化器内科学分野	Resolution of malignant biliary obstruction using endoscopic ultrasound-guided transmural drainage in a patient with unresectable pancreatic carcinoma complicated by a large cyst	J Hepatobiliary Pancreat Sci 29(6): e54-e56, 2022	Case report
53	Nagai K	消化器内科学分野	Single-session endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy and pancreatic duct drainage for concomitant biliary and pancreatic duct stones in a patient with a surgically altered anatomy	J Hepatobiliary Pancreat Sc 29(6): e57-e58, 2022	Case report
54	Mukai S	消化器内科学分野	Hybrid lithotripsy with endoscopic ultrasound-guided antegrade intervention and balloon enteroscopy-assisted endoscopic retrograde cholangiopancreatography for stacked bile duct stones	Dig Endosc 34(5): e92-e93, 2022	Case report
55	Yamamoto K	消化器内科学分野	Endoscopic ultrasound-guided gastrojejunostomy for malignant afferent loop syndrome with hemorrhage in a patient with recurrent peritoneal dissemination	J Hepatobiliary Pancreat Sci 29(7): e65-e67, 2022	Case report
56	Nakatsubo R	消化器内科学分野	Endoscopic retrieval of a drainage tube fragment from the gallbladder by expanding the gallbladder with saline infusion	Dig Endosc 34(6): e149-e150, 2022	Case report
57	Yamamoto K	消化器内科学分野	Use of a novel self-assembling hemostatic gel as a complementary therapeutic tool for endoscopic sphincterotomy-related bleeding	J Hepatobiliary Pancreat Sci 29(9): e81-e83, 2022	Case report
58	Yamamoto K	消化器内科学分野	Successful biliary cannulation using the hybrid endoscopic ultrasound-guided rendezvous technique for bile duct stenosis after endoscopic papillectomy	J Hepatobiliary Pancreat Sci 29(12): e119-e121, 2022	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
59	Koyama Y	消化器内科学分野	Findings of collagenous colitis with minimal endoscopic changes using texture and color enhancement imaging	Dig Endosc 34(7): e153-e154, 2022	Case report
60	Nakatsubo R	消化器内科学分野	Endoscopic ultrasound-guided biliary drainage for complete obstruction of hepaticojejunostomy using a forward-viewing echoendoscope and novel spiral dilator	Dig Endosc 34(7): e162-e163, 2022	Case report
61	Yamamoto K	消化器内科学分野	A migrated novel biliary stent penetrating the duodenal wall in a patient with ampullary adenoma after endoscopic papillectomy	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2022 Nov 3. (オンライン)	Case report
62	Muramatsu T	消化器内科学分野	A novel triangle traction method using a clip-band traction device for endoscopic submucosal dissection of early gastric cancer involving the pyloric ring	Endoscopy 55(S 01):E 207-E208, 2022	Case report
63	Mukai S	消化器内科学分野	Over-the-scope clip closure of a pancreaticocolonic fistula with walled-off necrosis after necrotizing pancreatitis using a rendezvous technique	Dig Endosc 35(1): e24-e25, 2023	Case report
64	Koyama Y	消化器内科学分野	Unique endoscopic and histological findings of early gastric cancer with surrounding map-like redness detected 10 years after successful Helicobacter pylori eradication	Endoscopy 55(S 01): E394-E396, 2023	Case report
65	Yamamoto K	消化器内科学分野	Two cases of endoscopic closure using an over-the-scope clip for endoscopy-related duodenal perforation: How to handle the over-the-scope clip	J Hepatobiliary Pancreat Sci 30(3): e9-e11, 2023	Case report
66	Hirakawa N	消化器内科学分野	Contrast-enhanced-guided non-dilated bile duct puncture for endoscopic ultrasound-guided antegrade stone removal	Dig Endosc 35(3): e35-e36, 2023	Case report
67	Yamamoto K	消化器内科学分野	Intraductal radiofrequency ablation therapy for eradication of intraductal residual lesions after endoscopic papillectomy for ampullary adenoma	J Hepatobiliary Pancreat Sci 29(11): e112-e115, 2022	Case report
68	Tonozuka R	消化器内科学分野	Editorial: Artificial intelligence for routine esophagogastroduodenoscopy quality monitoring: Is the future right before our eyes?	Gastrointest Endosc 5(6): 1147-1149, 2022	Others
69	Mukai S	消化器内科学分野	Editorial: Expanding minimally invasive treatment approaches for refractory large walled-off necrosis after necrotizing pancreatitis	Dig Endosc 34(6): 1253-1254, 2022	Others
70	Sugimoto K	消化器内科学分野	Response to "Limitations of a multiparametric US score for NASH prediction"	Radiology 306(3): e221498, 2023 (オンライン)	Others

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
71	Itoi T	消化器内科学分野	Editorial: Pancreatobiliary endoscopy: Diagnostic endoscopic retrograde cholangiopancreatography	Dig Endosc 34 Suppl 2: 99-101, 2022	Others
72	Tsukkahara K	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Second postoperative hemorrhage five weeks after transoral robotic surgery	Auris Nasus Larynx 49(2):304-307, 2022.4	Case report
73	Ogawa Y	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	The clinical outcome of the patients with horizontal semicircular canal variants of benign paroxysmal positional vertigo	Acta Otolaryngol 142(5): 381-387, 2022.5	Original Article
74	Okamoto I	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Quality-of-Life Evaluation of Patients with Unresectable Locally Advanced or Locally Recurrent Head and Neck Carcinoma Treated with Head and Neck Photoimmunotherapy	Cancers (Basel) 14(18): 4413, 2022.9	Original Article
75	Okamoto I	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	A Case Treated With Photoimmunotherapy Under a Navigation System for Recurrent Lesions of the Lateral Pterygoid Muscle	In Vivo 36(2): 1035-1040, 2022.4	Original Article
76	Kondo T	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Laryngeal Cancer With Lung Metastases Showing Long-Term Complete Response and Delayed Immune-Related Adverse Event After Nivolumab Discontinuation.	Ear, Nose and Throat Journal doi: 10.1177/01455613211031025. 2022.8 オンライン	Case report
77	Kondo T	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Nivolumab for recurrent/metastatic hypopharyngeal squamous cell carcinoma in a liver transplant recipient.	Auris Nasus Larynx Larynx 49(4): 721-726, 2022.8	Case report
78	Itani S	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Electronystagmography in 166 patients with acoustic neuroma before and after surgery.	Auris Nasus Larynx 49(4): 571-576, 2022.8	Original Article
79	Okada T	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Nivolumab for Platinum-refractory and -sensitive Recurrent and Metastatic Head and Neck Squamous Cell Carcinoma	Anticancer Research 42(10): 4907-4912, 2022.10	Original Article
80	Hirasawa K	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Efficacy of chotosan in dizziness induced by head rotation or extension in the standing position: a retrospective study	International Medical Journal 29: 105-108, 2022.4	Original Article
81	Tomioka R	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	The actual state of and factors for speech perception ability in adult cochlear implant wearers	American Journal of Otolaryngology 43(5): 103554, 2022.9	Original Article
82	Kishida T	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Pericardial metastasis of parotid mucoepidermoid carcinoma diagnosed by pericardial biopsy	Auris Nasus Larynx 49(4): 727-732, 2022.8	Original Article



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
83	Negishi Y	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学分野	Complete Response to Nivolumab of Resected Adenocarcinoma NOS With Parotid Gland Origin and Lung Metastasis	In Vivo 36(6): 2840-2843, 2022. 11	Case report
84	Kojima J	産科婦人科学分野	Human Chorionic Villous Differentiation and Placental Development.	Int J Mol Sci. 20;23(14):8003. 2022 Jul	Original Article
85	Ono M	産科婦人科学分野	The Circadian Clock, Nutritional Signals and Reproduction: A Close Relationship.	Int J Mol Sci. 12;24(2):1545. 2023 Jan	Original Article
86	Suzuki T	産科婦人科学分野	Pivotal Role of Ubiquitin Carboxyl-Terminal Hydrolase L1 (UCHL1) in Uterine Leiomyoma.	Biomolecules. 18;13(2):193. 2023 Jan	Original Article
87	Ueno K	産科婦人科学分野	Anthropometric measurements of term singletons at 6 years of age born from fresh and frozen embryo transfer: A multicenter prospective study in Japan.	Reprod Med Biol. 9;22(1):e12506. 2023 Feb	Original Article
88	Nishi H	産科婦人科学分野	Hypoxia-induced paclitaxel resistance in cervical cancer modulated by miR-100 targeting of USP15.	Gynecol Oncol Rep. 21;45:101138. 2023 Jan	Original Article
89	Furumoto H	呼吸器・甲状腺外科学分野	Endoscopic applications of near-infrared photoimmunotherapy (NIR-PIT) in cancers of the digestive and respiratory tracts	Biomedicines 10(4): 846, 2022	Review
90	Furumoto H	呼吸器・甲状腺外科学分野	Optimal light dose for hEGFR-targeted near-infrared photoimmunotherapy	Cancers (Basel) 14(16): 4042, 2022	Original Article
91	Takada I	呼吸器・甲状腺外科学分野	Involvement of 27-hydroxycholesterol on the progression of non-small cell lung cancer via the estrogen receptor	Am J Cancer Res 12(9): 4241-4253, 2022	Original Article
92	Shimada Y	呼吸器・甲状腺外科学分野	Radiomics with Artificial Intelligence for the Prediction of Early Recurrence in Patients with Clinical Stage IA Lung Cancer	Ann Surg Oncol 29(13): 8185-8193, 2022	Original Article
93	Kawaguchi Y	呼吸器・甲状腺外科学分野	Prognostic impact of artificial intelligence-based volumetric quantification of the solid part of the tumor in clinical stage 0-I adenocarcinoma	Lung Cancer 170: 85-90, 2022	Original Article
94	Yamamichi T	呼吸器・甲状腺外科学分野	Impact of postoperative complications on the long-term outcome in lung cancer surgery	Surg Today 52(9):1: 254-1261, 2022	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
95	Yamamichi T	呼吸器・甲状腺外科学分野	Impact of previous upper gastrointestinal cancer surgery on complications after lobectomy for lung cancer	J Thorac Dis 4(10): 3811-3818, 2022	Original Article
96	Shigefuku S	呼吸器・甲状腺外科学分野	Prognostic Significance of the Maximum Standardized Uptake Value on the Prognosis of Clinical Stage IA Lung Adenocarcinoma Based on the 8th Edition TNM Classification	Ann Surg Oncol. 30(2): 830-838, 2023	Original Article
97	Shimada Y	呼吸器・甲状腺外科学分野	Artificial intelligence-based radiomics for the prediction of nodal metastasis in early-stage lung cancer	Sci Rep. 3(1): 1028, 2023	Original Article
98	Shimada Y	呼吸器・甲状腺外科学分野	Extracellular vesicle-associated microRNA signatures related to lymphovascular invasion in early-stage lung adenocarcinoma	Sci Rep 13(1): 4823, 2023	Original Article
99	Riki Tanaka, Sayuri Fuse-Hamaoka, Miyuki Kuroiwa, Yuko Kurosawa, Tasuki Endo, Ryotaro Kime, Takeshi Yoneshiro, Takafumi Hamaoka.	健康増進スポーツ医学分野	The Effects of 10-Week Strength Training in the Winter on Brown-like Adipose Tissue Vascular Density	Int J Environ Res Public Health • 19(16):10375. (出版年月日) 2022年8月20日	Original Article
100	Mitoma H	医学教育学分野	Development of cerebellar reserve.	Cells 2022; 11: 3013.	Original Article
101	OTAKI J	医学教育学分野	Factors that hinder medical career aspirations: A nationwide questionnaire survey of teachers in charge of career guidance in Japanese high schools	PLoS ONE 2022;17: e0270477	Original Article
102	Kiyoshi Nomura a, Masashi Takahashi a, Toshioh Fujibuchi b, Yuya Koike c, Masayuki Hara d, Shogo Higaki e, Ikuo Kobayashi f, Souichirou Yoshino g	RI研究室	Application of liquid scintillation light guide (LSLG) to scattered X-ray measurement from dental panoramic radiography system	Applied Radiation and Isotopes Volume 194, April 2023, 110720	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
103	Sakamoto H	脳神経外科	Radio-pathological characteristics of malignant transformation of an epidermoid cyst in the cerebellopontine angle: A case report	Surgical Neurology International : 13・135・2022	Case Report
104	Okada H	脳神経外科	Embolization of Skull Base Meningiomas with Embosphere Microspheres: Factors Predicting Treatment Response and Evaluation of Complications	World Neurosurgery・162・e178-e186・2022・オンライン	Original Article
105	Matsushima K	脳神経外科	Pediatric vestibular schwannoma without evidence of neurofibromatosis: consecutive 18 microsurgical experience.	Childs Nerv Syst. 38(8):1505-1512, 2022	Original Article
106	Ichimasu N	脳神経外科	Features of postoperative hearing function changes in patients with cerebellopontine angle and intratemporal tumors other than vestibular schwannomas.	J Neurosurg. 6;138(1):78-85, 2022	Original Article
107	Matsushima K	脳神経外科	Trigeminal schwannoma surgery: challenges in preserving facial sensation.	Adv Tech Stand Neurosurg. 46:95-107, 2023	Original Article
108	Matsushima K	脳神経外科	Resection of petroclival clear cell meningioma by anterior transpetrosal approach: diagnosis of a rare pathology and improvement of preoperative hearing disturbance.	Neurosurg Focus. 6(2):V3, 2022	Case Report
109	Akimoto J	脳神経外科	First Clinical Report of the Intraoperative Macro- and Micro-Photodiagnosis and Photodynamic Therapy Using Talaporfin Sodium for a Patient with Disseminated Lumbar Medulloblastoma.	J Clin Med, 12(2), Jan 5 2023	Case Report
110	Mizushima R	呼吸器内科学分野	Double-ring sign in granulocyte colony-stimulating factor-induced vasculitis.	Respirol Case Rep. 2022 May 18;10(6):e0976.	Case report
111	Togashi Y	呼吸器内科学分野	Surfactant protein D: A useful biomarker for distinguishing COVID-19 pneumonia from COVID-19 pneumonia-like diseases.	Health Sci Rep. 2022 Apr 25;5(3):e622.	Original Article
112	Aida K	救急・災害医学分野	Potentially inappropriate medications at admission among elderly patients transported to a tertiary emergency medical institution in Japan	Acute Medicine & Surgery9(1):e748 .doi:10.1002/ams2.748, 2022	Original Article
113	Sakurai M	救急・災害医学分野	Acute Hydrocephalus Associated with Streptococcus anginosus meningitis	European Journal of Case Reports in Internal Medicine9(11):doi:10.12890/2022_003653, 2022	Case report
114	Yasuyo Kashiwagi	小児科・思春期科学分野	A Case of Focal Segmental Glomerulosclerosis in a Young Girl with a Very Low Birth Weight	Pediatr Rep, 14(2):166-169, 2022/04	Case report

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
115	Iio Kazuki	小児科・思春期科学分野	Kawasaki Disease (KD) With Linear Facial Erythema Coinciding With Blaschko's Lines.	Cureus, 14(6):e25568, 2022/06	Case report
116	Chida Rie	小児科・思春期科学分野	Erythema on both the dorsal and plantar foot surfaces.	Paediatr Child Health, 27(4):193-194, 2022/07	Case report
117	Iio Kazuki	小児科・思春期科学分野	Blue Sclera in an Infant with Severe Iron Deficiency Anemia.	J Pediatr, 247:169-170, 2022/08	Case report
118	Chida Rie	小児科・思春期科学分野	Chronic Diarrhea Associated with Edwardsiella Tarda Gastroenteritis: A Case Report and Literature Review.	Pediatr Infect Dis J, 41(10):e440-e442, 2022/10	Case report
119	Chida Rie	小児科・思春期科学分野	Perinatal lethal Gaucher disease: A case report and review of literature.	Brain Dev, , 2022/10	Case report
120	Chida Rie	小児科・思春期科学分野	A Case of Late-Onset Group B Streptococcus Serotype Ib Meningitis With Absence of Pleocytosis at the Initial Cerebrospinal Fluid Analysis	Cureus, , 2022/11	Case report
121	Shingo Oana	小児科・思春期科学分野	Myoclonic seizures of inherited glycosylphosphatidylinositol deficiency treated with diazepam and clonazepam: a case report	Epilepsy & Seizure, Vol. 14(No. 1):78-83, 2022/11	Case report
122	Yusuke Watanabe	小児科・思春期科学分野	Pediatric Cutaneous Mastocytosis With Motor and Intellectual Delay.	Cureus, 2023 Feb 2;15(2):e34536.	Case report
123	Junya SAISHO	小児科・思春期科学分野	Cytokine profiling and MEFV gene analysis of Japanese patients with periodic fever, aphthous stomatitis, pharyngitis, and adenitis syndrome	東京医科大学雑誌, 80(3):202-210, 2022/07	Original Article
124	Miyazaki Haruko	小児科・思春期科学分野	Effect of vaccine program on IgG antibody titers for measles, rubella, varicella, and mumps in young adults in Japan: Survey between 2018 and 2021.	J Infect Chemother, 28(10):1410-1414, 2022/10	Original Article
125	Kentaro Mori	小児科・思春期科学分野	Chemokine/Interleukin Imbalance Aggravates the Pathology of Respiratory Syncytial Virus Infection	J Clin Med. 2022 Oct 13;11(20):6042.	Original Article
126	Hiromu Niimura	小児科・思春期科学分野	A 3-year-old girl with systemic capillary leak syndrome suffered sudden cardiac arrest during venous access	Journal of Japan SIDS Research Society. 22: 13-19, 2022	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
127	Tokuyama N	泌尿器科学分野	Prediction of non-muscle invasive bladder cancer recurrence using machine learning of quantitative nuclear features.	Mod Pathol. 2022 Apr;35(4):533-538	Original Article
128	Hashimoto T	泌尿器科学分野	Prostate-specific antigen nomogram to predict advanced prostate cancer using area under the receiver operating characteristic curve boosting.	Urol Oncol. 2022 Apr;40(4):162	Original Article
129	Nishi W	免疫学分野	Evaluation of therapeutic PD-1 antibodies by an advanced single-molecule imaging system detecting human PD-1 microclusters.	Nature Communications 14, 3157, 2023	Original Article
130	Tamaru S	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Machine learning approach to predict subtypes of primary aldosteronism is helpful to estimate indication of adrenal vein sampling	High Blood Press Cardiovasc Prev 29(4):375-383, 2022	Original Article
131	Iijima Y	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Nephroprotective Effects of Dapagliflozin in Patients with Type 2 Diabetes	Intern Med 62(5):681-688, 2023	Original Article
132	Shikuma J	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Hematocrit elevation after SGLT2 inhibitor administration may be associated with the degree of proximal tubular damage	Medicine 101(42):e31122, 2022	Original Article
133	Shikuma J	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Impact of gender differences on lifestyle and glycemic control in Japanese patients with diabetes during COVID-19 lockdowns	Primary care diabetes 16(3):350-354, 2022	Original Article
134	Hara N	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Hypercalcemia associated with dysgerminoma and elevation of calcitriol: A case report and review of the literature	SAGE open medical case reports 10:2050313X211068562, 2022(Online)	Case report
135	Iwasaki H	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Ventricular fibrillation immediately after the treatment of Graves' disease coexisting with atypical angina and long QT syndrome: a case report	Thyroid research 15(1):18-18, 2022	Case report
136	Ryo Suzuki	糖尿病・代謝・内分泌内科学分野	Prevalence and predictors of clinical inertia in patients with type 2 diabetes who were treated with a single oral antidiabetic drug	J Diabetes Investig 14(1):81-91, 2023	Review
137	Hiroyuki Kikuchi	公衆衛生学分野	Persistence of Mental Health Deterioration Among People Living Alone During the COVID-19 Pandemic: A Periodically-repeated Longitudinal Study	J Epidemiol. 2022 Jul 5;32(7):345-353.	Original Article
138	Yusuke Watanabe	感染制御部	Disseminated Mycobacterium chelonae Infection, Including Discitis	Intern Med. 2022 Jul 1;61(13):2085-2086.	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
139	Yusuke Watanabe	感染制御部	A fatal case of repeated ventricular fibrillation due to torsade de pointes following repeated administration of metoclopramide	Clin Case Rep. 2022 Aug 9;10(8):e6213.	Case report
140	Masaki Machida	公衆衛生学分野	Individual-level social capital and COVID-19 vaccine hesitancy in Japan: a cross-sectional study	Hum Vaccin Immunother. 2022 Nov 30;18(5):2086773.	Original Article
141	Yusuke Watanabe	感染制御部	Comparison of methylprednisolone pulse vs conventional dexamethasone for adult cases of COVID-19 requiring oxygen; a Japanese retrospective cohort study	J Infect Chemother. 2023 Mar;29(3):269-273.	Original Article
142	Katagiri S	血液内科学分野	Mutated KIT Tyrosine Kinase as a Novel Molecular Target in Acute Myeloid Leukemia. K	International Journal of Molecular Sciences 2022;23(9):4694.	Review
143	Gotoh A	血液内科学分野	Philadelphia chromosome-negative myeloproliferative neoplasms: clinical aspects and treatment options.	Int J Hematol. 2022;115(5):616-618.	Review
144	Okabe S	血液内科学分野	Therapeutic targeting of PFKFB3 and PFKFB4 in multiple myeloma cells under hypoxic conditions.	Biomark Res. 2022;10(1):31.	Others
145	Akahane D	血液内科学分野	Correction to: Dexamethasone Treatment for COVID-19-Related Lung Injury in an Adult with WHIM Syndrome.	J Clin Immunol. 2022;42:1106.	Others
146	Tanaka Y	血液内科学分野	Potential of a sphingosine 1-phosphate receptor antagonist and sphingosine kinase inhibitors as targets for multiple myeloma treatment	Oncol Lett 2022;23(4):111.	Others
147	Katagiri S	血液内科学分野	Tyrosine Kinase Inhibitors Do Not Promote a Decrease in SARS-CoV-2 Anti-Spike IgG after BNT162b2 Vaccination in Chronic Myeloid Leukemia: A Prospective Observational Study.	Vaccines (Basel). 2022;10:1404.	Others
148	Shiina K	循環器内科学分野	Differential effect of a xanthine oxidase inhibitor on arterial stiffness and carotid atherosclerosis: a subanalysis of the PRIZE study.	Hypertens Res. 45(4):602-611, 2022	Original Article
149	Takei Y	循環器内科学分野	Association Between Insulin Resistance, Oxidative Stress, Sympathetic Activity and Coronary Microvascular Function in Patients With Early Stage Impaired Glucose Metabolism	Circ J. 86(5):866-873, 2022	Original Article
150	Yazaki Y	循環器内科学分野	The Utility of a Lewis Lead for Distinguishing Atrioventricular Reentrant Tachycardia from Typical Atrioventricular Nodal Reentrant Tachycardia	Intern Med. 61(11):1645-1651, 2022	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
151	Hachiya S	循環器内科学分野	Performance of Hybrid Imaging in the Diagnosis of Coronary Artery Disease	Am J Cardiol.174:34-39, 2022	Original Article
152	Nakano H	循環器内科学分野	Bidirectional Longitudinal Relationships Between Arterial Stiffness and Hypertension Are Independent of Those Between Arterial Stiffness and Diabetes: A Large-Scale Prospective Observational Study in Employees of a Japanese Company	J Am Heart Assoc. 11(13), 2022 (オンライン)	Original Article
153	Inagaki N	循環器内科学分野	Shared decision making between patients with Fabry disease and physicians in Japan: An online survey	Mol Genet Metab Rep. 32:100899, 2022 (オンライン)	Original Article
154	Kumai K	循環器内科学分野・遺伝子診療センター	Longitudinal Association of Arterial Stiffness and Pressure Wave Reflection with Decline of the Cardiac Systolic Performance in Healthy Men	J Atheroscler Thromb. 29(9):1342-1351, 2022	Original Article
155	Kosuge H	循環器内科学分野	Potential of Gold Nanoparticles for Noninvasive Imaging and Therapy for Vascular Inflammation	Molecular Imaging and Biology. 24(5):692-699, 2022	Original Article
156	Sasaki Y	循環器内科学分野	Association of the severity of vascular damage with discordance between the fractional flow reserve and non-hyperemic pressure ratios	J Cardiol. 81(2):244-249, 2023	Original Article
157	Takei Y	循環器内科学分野	Association Between Endothelial Dysfunction and Left Ventricular Diastolic Stiffness - Subanalysis of the Flow-Mediated Dilation Japan (FMD-J) Study	Circ J. CJ-22-081, 2023 (オンライン)	Original Article
158	Shiina K	循環器内科学分野	Canagliflozin independently reduced plasma volume from conventional diuretics in patients with type 2 diabetes and chronic heart failure: a subanalysis of the CANDLE trial	Hypertens Res. 46(2):495-506, 2023	Original Article
159	Shiina K	循環器内科学分野	Longitudinal associations between alcohol intake and arterial stiffness, pressure wave reflection, and inflammation.	J Atheroscler Thromb. 30(2):192-202, 2023	Original Article
160	Tomiyaama H	循環器内科学分野	Cardio-ankle vascular index in the management of hypertension	Hypertens Res. 46(2):537-538, 2023	Review
161	Kashiwagi T	組織・神経解剖学分野	Organization of self-advantageous niche by neural stem/progenitor cells during development via autocrine VEGF-A under hypoxia	Inflammation and Regeneration 43:8, 2023 (オンライン)	Original Article
162	Uematsu J	消化器内視鏡学	Efficacy of a third-generation high-vision ultrathin endoscope for evaluating gastric atrophy and intestinal metaplasia in Helicobacter pylori-eradicated patients	J Clin Med 11(8):2198, 2022	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
163	Sugimoto M	消化器内視鏡学	Efficacy of high-vision transnasal endoscopy using texture and colour enhancement imaging and narrow-band imaging to evaluate gastritis: a randomized controlled trial	Ann Med 54(1): 1004-1013, 2022	Original Article
164	Kawai Y	消化器内視鏡学	Linked color imaging effectively detects the endoscopic atrophic border in transnasal endoscopy	J Clin Biochem Nutr 70(3): 290-296, 2022	Original Article
165	Nagata N	消化器内視鏡学	Metagenomic identification of microbial signatures predicting pancreatic cancer from a multinational study	Gastroenterology 163(1): 222-238, 2022	Original Article
166	Nagata N	消化器内視鏡学	Population-level metagenomics uncovers distinct effects of multiple medications on the human gut microbiome	Gastroenterology 163(4): 1038-1052, 2022	Original Article
167	Kawai T	消化器内視鏡学	Investigation of the new advantages of colonoscope insertion with an endoscopic position detection unit	Diagnostics (Basel) 12(11): 2610, 2022	Original Article
168	Sugimoto M	消化器内視鏡学	Third-generation high-vision ultrathin endoscopy using texture and color enhancement imaging and narrow-band Imaging to evaluate Barrett's esophagus	Diagnostics (Basel) 12(12): 3149, 2022	Original Article
169	Niikura R	消化器内視鏡学	Artificial intelligence versus expert endoscopists for diagnosis of gastric cancer in patients who have undergone upper gastrointestinal endoscopy	Endoscopy 54(8): 780-784, 2022	Original Article
170	Kawai T	消化器内視鏡学	Long-term safety and effectiveness of vonoprazan for prevention of gastric and duodenal ulcer recurrence in patients on nonsteroidal anti-inflammatory drugs in Japan: a 12-month post-marketing surveillance study	Expert Opin Drug Saf 22(5): 425-431, 2023	Original Article
171	Nagata N	消化器内視鏡学	Human gut microbiota and its metabolites impact immune responses in COVID-19 and its complications	Gastroenterology 164(2): 272-288, 2023	Original Article
172	Kawai T	消化器内視鏡学	Present status and the future of ultrathin endoscopy	Dig Endosc 34(6): 1110-1120, 2022	Review
173	Sugimoto M	消化器内視鏡学	Using texture and colour enhancement imaging to evaluate gastrointestinal diseases in clinical practice: a review	Ann Med 54(1): 3315-3332, 2022	Review
174	Iwata E,	消化器内視鏡学	Gastric squamous metaplasia observed by image-enhanced endoscopy	DEN Open. 2023 Mar 14;3(1):e219	Case report



番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文 種別
175	Kawai T	消化器内視鏡学	Editorial: Improved transnasal examination of the upper gastrointestinal tract through advancements in ultrathin endoscopes	Dig Endosc 34(Suppl 2): 55-57, 2022	Letter
176	Okubo Y, Umezawa Y, Sakurai S, Hoshii N, Nakagawa H	皮膚科	Efficacy and Safety of Certolizumab Pegol in Japanese Patients with Generalized Pustular Psoriasis and Erythrodermic Psoriasis: 52-Week Results.	Dermatol Ther (Heidelb) 12(6): 1397-1415, 2022.06	Original Article
177	Okubo Y, Takahashi H, Hino R, Endo K, Kikuchi S, Ozeki Y, Nakamura T, Paris M, Abe M	皮膚科	Efficacy and Safety of Apremilast in the Treatment of Patients with Mild-to-Moderate Psoriasis in Japan: Results from PROMINENT, A Phase 3b, Open-Label, Single-Arm Study.	Dermatol Ther (Heidelb) 12(6):1469-1480, 2022.06	Original Article
178	Kato Y, Fukuhara Y, Nagatani T, Kanzaki A, Mae K, Irisawa R, Harada K, Umebayashi Y, Tsuboi R	皮膚科	Low-Dose MST-16/VP-16 Combination Chemotherapy in 9 Patients with Tumor Stage Mycosis Fungoides.	Dermatology 238(5): 961-966, 2022.05	Original Article
179	Kato H	脳神経内科	Prolyl isomerase Pin1 expression in the spinal motor neurons of patients with sporadic amyotrophic lateral sclerosis	J Clin Neurol 2022;18:463-469. doi: 10.3988/jcn.2022.1 8.4.463.	Original Article
180	Kato H	脳神経内科	Effect of Serum Perampanel Concentration on Sporadic Amyotrophic Lateral Sclerosis Progression	J Clin Neurol. 2023;19:280-287. doi: 10.3988/jcn.2022.0 213.	Original Article
181	Naito M	脳神経内科	Pathological features of glial cells and motor neurons in the anterior horn of the spinal cord in sporadic ALS using ADAR2 conditional knockout mice.	J Neurol Sci. 2023; 444: 120520. doi: 10.1016/j.jns.2022 .120520.	Original Article
182	Terashi H	脳神経内科	Clinical features of Parkinson's disease in patients with early-onset freezing of gait	Parkinsons Dis 2022: 4732020, 2022	Original Article
183	Aizawa H	脳神経内科	Nuclear pore destruction and loss of nuclear TDP-43 in FUS mutation-related amyotrophic lateral sclerosis motor neurons	J Neurol Sci. • 436 • 120187 • 2022	Original Article
184	Shinji Fukushima, Takashi Nakano, Hiroyuki Shimizu, Atsuo Hamada	渡航者医療センター	Immunogenicity of Catch-Up Immunization with Conventional Inactivated Polio Vaccine among Japanese Adults	Vaccines • 10 • 2160 • 2022	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
185	Keitaro Miyake	Department of Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery	Ricolinostat enhances adavosertib-induced mitotic catastrophe in TP53-mutated head and neck squamous cell carcinoma cells	Int J Oncol.	Original Article
186	Yamashita Gai	Department of Otorhinolaryngology, Head and Neck Surgery	p53 regulates lysosomal membrane permeabilization as well as cytoprotective autophagy in response to DNA-damaging drugs	Cell Death Discov.	Original Article
187	Goto H	眼科学分野	Epidemiological characteristics of malignant eyelid tumors at a referral hospital in Japan.	Jpn J Ophthalmol. 66:343-349, 2022.	Original Article
188	Wakabayashi Y	眼科学分野	Neovascular age-related macular degeneration inactivated during systemic administration of an immune checkpoint inhibitor pembrolizumab for lung cancer.	Acta Ophthalmologica. 100:860-861, 2022.	Original Article
189	Kawakami S	眼科学分野	Healing rate of macular edema secondary to branch retinal vein occlusion in two years after initiation of intravitreal ranibizumab later combined with other treatment as needed and characteristics of refractory cases.	PLOS ONE Published, 2023.	Original Article
190	Yanagida K	眼科学分野	Ectopic inner foveal layer as a factor associated with metamorphopsia after vitrectomy for epiretinal membrane.	Acta Ophthalmol. Nov;100 (7):775-780. doi: 10.1111/aos.15092, 2022.	Original Article
191	Baba R	眼科学分野	Study of the Correlation Between Severity of Endophthalmitis and Posterior Vitreous Detachment Using a Rabbit Endophthalmitis Model.	Invest Ophthalmol Visual Science 63(2):6, 2022.	Original Article
192	Kunimi K	眼科学分野	Analysis of facial features of patients with sagging eye syndrome and intermittent exotropia compared to controls	Am J Ophthalmol. 246:51-57, 2022.	Original Article
193	Kenichi I	消化器・小児外科学分野	Long-term surgical outcomes of gastric neuroendocrine carcinoma and mixed neuroendocrine-non-neuroendocrine neoplasms	World Journal of Surgical Oncology 2022 24;20(1):165.	Original Article
194	Kenichi I	消化器・小児外科学分野	Comparison of Intracorporeal Trapezoidal-shaped Gastroduodenostomy and Delta-shaped Anastomosis After Laparoscopic Distal Gastrectomy for Gastric Cancer: A Single-center Retrospective Study	Surgical Laparoscopy, Endoscopy & Percutaneous Techniques. 2022 1;32(3):292-298	Original Article
195	Kenichi I	消化器・小児外科学分野	Use of Polyglycolic Acid Sheets for the Prevention of Pancreatic Fistula after Laparoscopic Gastrectomy: A Single-Center Retrospective Study	American Surgeon 2022 19;31348221146971	Original Article
196	Ryutaro U	消化器・小児外科学分野	Predicting the prognosis of lower rectal cancer using preoperative magnetic resonance imaging with artificial intelligence	Techniques in Coloproctology 17 February 2023	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
197	Tetsuo I	消化器・小児外科学分野	Predictive modelling for high-risk stage II colon cancer using auto-artificial intelligence	Tech Coloproctol. 2023 Mar;27(3):183-188	Original Article
198	Tetsuo I	消化器・小児外科学分野	A new technique for robotic lateral pelvic lymph node dissection for advanced low rectal cancer with emphasis on en bloc resection and inferior vesical vessel preservation	Surg Endosc. 2022 Oct;36(10):7789-7793	Others
199	Tetsuo I	消化器・小児外科学分野	Intracorporeal delta-shaped anastomosis without suturing technique in laparoscopic colectomy using a linear stapling device with bioabsorbable polyglycolic acid sheet	Tech Coloproctol. 2022 Jul;26(7):593-594	Others
200	Tetsuo I	消化器・小児外科学分野	Predictors of Lateral Pelvic Lymph Node Metastasis in Advanced Low Rectal Cancer Treated With Neoadjuvant Chemotherapy	Anticancer Res. 2022 Apr;42(4):2113-2121	Original Article
201	Junichi M	消化器・小児外科学分野	Comparison of pressure resistance of double-rows and triple-rows circular stapler in rectal double stapling technique: In vitro study	Medicine (Baltimore) . 2022 Jul 15;101(28)	Original Article
202	Junichi M	消化器・小児外科学分野	Effectiveness of a new triple-row circular stapler in reducing the risk of colorectal anastomotic leakage: A historical control and propensity score-matched study	Medicine (Baltimore) . 2022 Jul 8;101(27)	Original Article
203	Junichi M	消化器・小児外科学分野	Novel and Simple Nomograms Using Inflammation and Nutritional Biomarkers for Stage II-III Colon Cancer, Taking "Time after Curative Surgery" into Consideration	Nutr Cancer . 2022;74(8):2875-2886.	Original Article
204	Hiroshi K	消化器・小児外科学分野	Salivary metabolomics with machine learning for colorectal cancer detection	Cancer Sci . 2022 Sep;113(9):3234-3243	Original Article
205	Kenta K	消化器・小児外科学分野	Artificial intelligence predicts lymph node metastasis or risk of lymph node metastasis in T1 colorectal cancer	International Journal of Clinical Oncology 2022 Oct;27(10):1570-1579.	Original Article

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有
・ 手順書の主な内容 東京医科大学医学倫理審査委員会に関する規程、東京医科大学医学倫理審査委員会運用手順 東京医科大学における人を対象とする生命科学・医学系研究に係る標準業務手順書、 東京医科大学における研究に用いるヒト由来の試料およびその保管に係る手順書 (委員会の業務、委員会の組織、審査手数料、教育・研修、事務局に関する事項 研究責任者及び研究分担者の責務、研究に用いる試料の使用・保管に関する事項 等)	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有
・ 規定の主な内容 教職員が業務活動・研究活動等を行う上での利益相反 (COI) を、適正に管理するため必要な事項を定め、法人運営、研究活動の公正性、信頼性、透明性を高めることを目的としている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年1回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年6回
<p>・研修の主な内容</p> <p>2022. 04. 25 演題：改正個人情報保護法施行に伴う倫理指針の改正について</p> <p>2022. 07. 11 演題：研究に必要な許可と報告</p> <p>2022. 09. 20 演題：国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST) 研究倫理教材「THE LAB」</p> <p>2022. 11. 21 演題：研究プロトコル作成のための統計学</p> <p>2023. 01. 30 演題：研究で試料を用いるには</p> <p>2023. 03. 06 演題：研究責任者の責務と研究計画書作成時に注意すべきポイント</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

【資料2】参照
---------

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	230人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
清水 聰一郎	総合診療科	主任教授	23年	
後藤 明彦	血液内科	主任教授	35年	
阿部 信二	呼吸器内科	主任教授	30年	
里見 和浩	循環器内科	主任教授	29年	
鈴木 亮	糖尿病・代謝・内分泌内科	主任教授	27年	
沢田 哲治	リウマチ・膠原病内科	主任教授	35年	
糸井 隆夫	消化器内科	主任教授	32年	
菅野 義彦	腎臓内科	主任教授	32年	
赫 寛雄	脳神経内科	主任教授	30年	
清水 聰一郎	高齢診療科	主任教授	23年	
井上 猛	メンタルヘルス科	主任教授	39年	
池田 徳彦	呼吸器外科・甲状腺外科	主任教授	37年	
島原 佑介	心臓血管外科	主任教授	22年	
永川 裕一	消化器外科・小児外科	主任教授	29年	
石川 孝	乳腺科	主任教授	36年	
河野 道宏	脳神経外科	主任教授	36年	
山本 謙吾	整形外科	主任教授	40年	
松村 一	形成外科	主任教授	35年	
西 洋孝	産科・婦人科	主任教授	29年	
山中 岳	小児科・思春期科	主任教授	27年	
後藤 浩	眼科	主任教授	39年	
塚原 清彰	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	主任教授	25年	
大野 芳正	泌尿器科	主任教授	33年	
内野 博之	麻酔科	主任教授	36年	
齋藤 和博	放射線科	主任教授	33年	
木内 英	臨床検査医学科	主任教授	24年	
本間 宙	救命救急センター	主任教授	30年	
上野 竜一	リハビリテーション科	臨床講師	33年	
原田 和俊	皮膚科	主任教授	29年	

渡邊 秀裕	感染症科	教授	37年	
長尾 俊孝	病理診断部	主任教授	31年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

○看護部

1. 集中ケア

1) 看護専門領域研修「集中ケア」全15回

・研修の主な内容：呼吸ケアサポートナース育成講座ベーシック1、呼吸ケアサポートナース育成講座ベーシック2、呼吸ケアサポートナース育成講座ベーシック3、心電図のはじめの一步、急性期せん妄を見逃さない、呼吸ケアナース養成講座アドバンス1、呼吸ケアナース養成講座アドバンス2、呼吸ケアナース養成講座アドバンス3、クリティカルケアシリーズ1（生体侵襲を学ぼう）、クリティカルケアシリーズ2（人工呼吸管理を学ぼう1）、クリティカルケアシリーズ3（人工呼吸管理を学ぼう2）、クリティカルケアシリーズ4（循環管理を学ぼう1）、クリティカルケアシリーズ5（循環管理を学ぼう2）、クリティカルケアシリーズ6（集中治療後症候群PICSを学ぼう）、病棟急変を防ごう

・研修の期間：2022年5月10日、5月27日、6月20日、7月15日、7月29日、8月5日、8月10日、8月26日、9月2日、9月16日、10月25日、11月18日、12月14日、2023年1月12日、2月3日

・実施回数：15回

・研修の参加人数：計260名

2) 新人看護師研修「人工呼吸器装着中の看護」

・研修の主な内容：人工呼吸器装着患者をとりまく環境と看護、人工呼吸器装着患者の身体的・精神的苦痛、気管吸引、カフ圧調整、チューブの固定、人工呼吸器装着患者におけるシミュレーション

・研修の期間：2022年11月9日午前・午後、11月10日午前・午後

・実施回数：4回



・研修の参加人数：計107名

## 2. 救急看護

### 1) 看護専門領域研修「救急看護」全8回

・研修の主な内容：患者さんの異常に気付くフィジカルアセスメント（気道・呼吸編）、  
「急変OODA」院内急変の原因と対策（夏編）、患者さんの異常に気付くフィジカルアセスメント  
（循環編）、患者さんの異常に気付くフィジカルアセスメント（意識編）、スタッフのための急  
変対応、「急変OODA」院内急変の原因と対策（冬編）、リーダーのための急変対応-2、新人のた  
めのフィジカルアセスメント総集編

・研修の期間：2022年5月20日、7月8日、8月12日、11月4日、12月2日、12月9日、  
2023年2月17日、3月10日

・実施回数：8回

・研修の参加人数：78名

### 2) 新人看護師研修「急変時の看護」

・研修の主な内容：一次救命処置の演習（事例をグループ毎に実践、デブリーフィング実施）  
講義（2次救命処置の基本、救急カートについて）

・研修の期間：2022年10月6日午前・午後、10月7日午前・午後、10月13日午後

・実施回数：5回

・研修の参加人数：計110名

## 3. がん看護

### 1) 看護専門領域研修「がん看護シリーズ」全2回

・研修の主な内容：がん患者のアピアランスケア、がん患者のライフサイクルと意思決定  
支援

・研修の期間：2022年11月24日、2023年1月19日

- ・実施回数：2回

- ・研修の参加人数：40名

## 2) ラダーレベルⅡ研修「がん看護」

- ・研修の主な内容：化学療法薬の種類と作用機序・副作用と支持療法、化学療法前・中・後の看護とセルフケア支援など

- ・研修の期間：2023年1月27日

- ・実施回数：1回

- ・研修の参加人数：9名

## 4. 慢性心不全看護

### 1) 看護専門領域研修「慢性心不全看護」全4回

- ・研修の主な内容：心不全と併存疾患の関係についてPart1、心不全と併存疾患の関係についてPart2、心不全と併存疾患の関係についてPart3、心不全療養指導の基本

- ・研修の期間：2022年6月30日、9月9日、11月29日、2023年1月30日

- ・実施回数：4回

- ・研修の参加人数：55名

## 5. 皮膚・排泄ケア

### 1) 看護専門領域研修「皮膚・排泄ケア」全3回

- ・研修の主な内容：ストーマケアの基本①、ストーマケアの基本②、ストーマケアの基本③

- ・研修の期間：2022年8月25日、9月29日、11月28日

- ・実施回数：3回

- ・研修の参加人数：57名

## 6. 糖尿病看護

1) 看護専門領域研修「糖尿病看護シリーズ」全5回

・研修の主な内容：安全にインスリン療法を実施しよう、周手術期の糖尿病看護、糖尿病患者のための食事療法、透析予防のための患者指導、糖尿病患者のフットケア

・研修の期間：2022年8月23日、10月7日、11月11日、12月8日、2023年1月20日

・実施回数：5回

・研修の参加人数：44名

7. 摂食・嚥下障害看護

1) 看護専門領域研修「摂食・嚥下障害看護シリーズ」全6回

・研修の主な内容：看護に活かせる栄養管理、看護師が行う口腔ケア、看護に必要な嚥下の基礎知識、嚥下機能へ影響する要因、嚥下障害のフィジカルアセスメント、看護師が行う嚥下訓練

・研修の期間：2022年6月3日、6月29日、9月1日、10月13日、11月15日、12月19日

・実施回数：6回

・研修の参加人数：61名

8. 排尿自立ケア

1) 看護専門領域研修「排尿ケアシリーズ」全1回

・研修の主な内容：チームで考えよう！現場で役立つ排尿ケア

・研修の期間：2022年7月22日

・実施回数：1回

・研修の参加人数：16名

9. 小児救急看護

1) 看護専門領域研修「小児救急看護シリーズ」全3回

・研修の主な内容：小児の蘇生（BLS+AED編）、小児BLS（事例編）1

- ・研修の期間：2022年7月12日、9月20日、10月4日
- ・実施回数：3回
- ・研修の参加人数：19名

## 10. 認知症看護

### 1) 看護専門領域研修「認知症看護シリーズ」全1回

- ・研修の主な内容：臨地におけるコミュニケーション技術を学ぶ
- ・研修の期間：2022年9月14日
- ・実施回数：1回
- ・研修の参加人数：19名

### 2) 新人看護師研修「パーソンセンタードケアで進める認知症看護Basic」

- ・研修の主な内容：認知症高齢者の現状・中核症状の理解と基本的なアセスメントとパーソンセンタードケア
- ・研修の期間：2023年2月2日、2月6日、2月9日、2月13日
- ・実施回数：4回
- ・研修の参加人数：計104名

## 11. 臨床倫理

### 1) 看護専門領域研修「臨床倫理シリーズ」全2回

- ・研修の主な内容：クリティカルケアにおけるエンドオブライフケア、クリティカルケアにおける代理意思決定支援
- ・研修の期間：2022年5月30日、6月30日
- ・実施回数：2回
- ・研修の参加人数：21名

## 12. 褥瘡ケア

### 1) 看護専門領域研修「褥瘡ケア研修シリーズ」全6回

・研修の主な内容：皮膚の構造から考える褥瘡の基礎知識、健康な皮膚を目指そう！－ナースが知っておきたいスキンケア、皆で防ごう！MDRPUとスキン-ケア！、基礎の状態を正しく知ろう！－DESIGN-R2020－、褥瘡を早く治そう！効果的な褥瘡治療とテクニック！、低栄養は怖い！褥瘡予防につながる栄養管理！

・研修の期間：2022年5月17日、6月8日、7月14日、8月1日、9月8日、10月3日、

・実施回数：6回

・研修の参加人数：171名

## 13. 感染管理

### 1) 看護専門領域研修「感染管理シリーズ」全5回

・研修の主な内容：感染症診断について理解しよう、理解して防ぐ薬剤耐性菌1、理解して防ぐ薬剤耐性菌2、感染予防策1（結核）、感染予防策2（ノロウイルス）

・研修の期間：2022年5月13日、7月7日、9月22日、11月22日、2023年1月13日

・実施回数：5回

・研修の参加人数：62名

## 14. 新生児集中ケア

### 1) 看護専門領域研修「新生児集中ケアシリーズ」全8回

・研修の主な内容：新生児の痛みのケアを学ぼう！、保育器にいる赤ちゃんの呼吸の観察を学ぼう！、超低出生体重児の初期ケア①、超低出生体重児の初期ケア②、超低出生体重児の初期ケア③、超低出生体重児の初期ケア④、新生児の挿管介助を学ぼう！、低体温療法中のケアを学ぼう！

・研修の期間：2022年6月7日、7月1日、8月2日、9月5日、9月30日、10月12日、10月31日、11月

21日

- ・実施回数：8回
- ・研修の参加人数：75名

#### 15. 脳卒中リハビリテーション看護

##### 1) 看護専門領域研修「脳卒中リハビリテーション看護シリーズ」全3回

・研修の主な内容：麻痺のある患者に対する、誤嚥させないポジショニングと安全・安楽な体位変換について、ガイドラインに沿った脳出血患者の看護ケア、ガイドラインに沿った脳梗塞患者の看護ケア

- ・研修の期間：2022年6月14日、9月15日、12月6日
- ・実施回数：3回
- ・研修の参加人数：46名

#### 16. 不妊症看護

##### 1) 看護専門領域研修「不妊症看護シリーズ」全1回

- ・研修の主な内容：妊娠しやすい身体づくり
- ・研修の期間：2022年10月17日
- ・実施回数：1回
- ・研修の参加人数：7名

#### ○薬剤部

- ・研修の主な内容：臨床感染症セミナー
- ・研修の期間・実施回数：2022年5月17日、6月8日、6月22日、7月6日、9月2日、11月25日、2023年2月24日、計7回
- ・研修の参加人数：35人(5月17日)、4人(6月8日)、40人(6月22日)、32人(7月6日)、59人(9月2日)

)、56人(11月25日)、55人(2月24日)

○臨床工学部（定期研修）

1・研修の主な内容 [生命維持管理装置] IABP、ECMO 適応と禁忌、構成と点検内容

・研修の期間・実施回数 2022年7月16日（放射線診断部）1回／2022年8月1日（EICU）1回

・研修の参加人数：看護師13名、放射線技師1名（放射線診断部）／管理栄養士1名、薬剤師1名、救命士1名（EICU）

2・研修の主な内容 [生命維持管理装置] 人工心肺 人工心肺とは、カニューレの種類、脳分離送血、心筋保護について

・研修の期間・実施回数 2022年8月29日、計1回

・研修の参加人数：看護師11名

3・研修の主な内容 [除細動器] 実機を用いて体験

・研修の期間・実施回数 2022年11月11日 1回

・研修の参加人数 看護師7名（外来看護師）

4・研修の主な内容 [ベッドサイドモニター等] 身近な医療機器の特性、経験からの注意点

・研修の期間・実施回数 2022年4月20日、4月21日（3回）、4月25日、4月26日、5月10日、5月11日、6月4日、6月7日、7月7日、7月11日、7月27日、8月4日、10月17日、10月18日、計18回（14部署）

・研修の参加人数：看護師138名

○中央検査部

1・研修の主な内容：アラート症例検討会

- ・研修の期間：2022年4月12日～2023年3月14日

- ・実施回数：13回

- ・研修の参加人数：33名（臨床検査技師）

2・研修の主な内容：日本電子機器研修

- ・研修の期間：2022年9月14日～9月17日

- ・実施回数：1回

- ・研修の参加人数：1名（臨床検査技師）

3・研修の主な内容：AIの基礎と医療分野への活用事例

- ・研修の期間：2022年11月25日

- ・実施回数：1回

- ・研修の参加人数：48名（臨床検査技師）

4・研修の主な内容：女性が気になるがんとその検査

- ・研修の期間：2022年12月6日

- ・実施回数：1回

- ・研修の参加人数：54名（臨床検査技師）

5・研修の主な内容：会話スキルの自己診断とスキルアップ

- ・研修の期間：2023年1月20日

- ・実施回数：1回

- ・研修の参加人数：54名（臨床検査技師）

○病理診断部



1・研修の主な内容：乳癌のHER2病理診断を考える

- ・研修の期間：2022年10月12日
- ・実施回数：1回
- ・研修の参加人数：3名（臨床検査技師）

2・研修の主な内容：ゲノム病理標準化講習会

- ・研修の期間：2022年7月1日～7月31日
- ・実施回数：1回
- ・研修の参加人数：1名（臨床検査技師）

#### ○放射線部

1・研修の主な内容 術前脳血管塞栓術治療

- ・研修の期間・実施回数：2022年4月4日、1回、（45分）
- ・研修の参加人数：放射線技師3名、診断部看護師4名、脳外科医師4名、医学生1名

2・研修の主な内容：造影剤安全性情報「ヨード・ガドリウム造影剤の急性副作用とその対策

- ・研修の期間・実施回数：2022年4月20日、1回
- ・研修の参加人数：22名、看護師3名

3・研修の主な内容：急性期脳梗塞治療

- ・研修の期間・実施回数 2022年5月9日、1回、（50分）
- ・研修の参加人数：放射線技師3名、診断部看護師4名、脳外科医師4名

4・研修の主な内容：コロナ病棟手指衛生及びガウンテクニック

- ・研修の期間・実施回数：2022年5月10日～13日、4回
- ・研修の参加人数：11名（放射線技師）

5・研修の内容：アナフィラキシーショックと造影検査に関する勉強会

- ・研修の期間・実施回数：2022年5月19日、1回
- ・研修の参加人数：23名、看護師2名

6・研修の主な内容：MRI造影剤の使用法について

- ・研修の期間・実施回数：2022年5月25日、1回
- ・研修の参加人数：9名

7・研修の内容：造影剤リスクマネジメント勉強会～アナフィラキシー対応を中心に～

- ・研修の期間・実施回数：2022年6月2日、1回
- ・研修の参加人数：26名、看護師2名

8・研修の主な内容：術前脳血管塞栓術治療

- ・研修の期間・実施回数：2022年6月6日、1回、（50分）
- ・研修の参加人数：放射線技師3名、診断部看護師3名、脳外科医師3名

9・研修の主な内容：医療画像処理装置 W・S Vitrea使用説明

- ・研修の期間・実施回数：2022年6月7日～9日、3回
- ・研修の参加人数：41名（放射線技師）

10・研修の主な内容：術前脳血管塞栓術治療

- ・研修の期間・実施回数：2022年6月20日、1回、（45分）
- ・研修の参加人数：放射線技師3名、診断部看護師5名、脳外科医師4名

11・研修の主な内容：新デバイス パルスライダーについて

- ・研修の期間・実施回数：2022年7月4日、1回、（50分）
- ・研修の参加人数：放射線技師3名、診断部看護師2名、脳外科医師3名

12・研修の内容：ISMRM速報

- ・研修の期間・実施回数：2022年7月27日、1回
- ・研修の参加人数：11名

13・研修の主な内容：硬膜動静脈瘻治療(TVE)

- ・研修の期間・実施回数：2022年9月5日、1回、（50分）
- ・研修の参加人数：放射線技師4名、診断部看護師3名、脳外科医師3名

14・研修の主な内容：未破裂動脈瘤治療

- ・研修の期間・実施回数：2022年9月26日、1回、（45分）
- ・研修の参加人数：放射線技師3名、診断部看護師3名、脳外科医師4名

15・研修の主な内容：頸動脈狭窄症治療(CAS)

- ・研修の期間・実施回数：2022年10月3日、1回、（50分）
- ・研修の参加人数：放射線技師2名、診断部看護師5名、脳外科医師3名

16・研修の内容：MRI造影剤リスクマネジメント勉強会～急変時の対応について～

- ・研修の期間・実施回数：2022年10月5日、1回
- ・研修の参加人数：13名

17・研修の主な内容：副作用緊急対応シミュレーション動画視聴、血管外漏出時の対応など

- ・研修の期間：2022年10月6日、1回

- ・研修の参加人数：25名

18・研修の主な内容：術前脳血管塞栓術治療

- ・研修の期間・実施回数：2022年10月17日、1回、（60分）

- ・研修の参加人数：放射線技師4名、診断部看護師5名、脳外科医師4名

19・研修の主な内容：造影剤腎症の実際、ビグアナイド系薬剤との併用について

- ・研修の期間・実施回数：2022年10月26日、1回

- ・研修の参加人数：26名、看護師2名

20・研修の主な内容：STAGED CASについて

- ・研修の期間・実施回数：2022年10月31日、1回、（50分）

- ・研修の参加人数：放射線技師3名、診断部看護師4名、脳外科医師2名

21・研修の主な内容：急性期脳梗塞治療

- ・研修の期間・実施回数：2022年11月7日、1回、（50分）

- ・研修の参加人数：放射線技師4名、診断部看護師3名、脳外科医師4名

22・研修の主な内容：MRI副作用時の対応について

- ・研修の期間・実施回数：2022年11月9日、1回

- ・研修の参加人数：14名

23・研修の主な内容：診療用高エネルギー放射線発生装置の安全性および使用方法に関する研修

- ・研修の期間・実施回数：2022年11月19日～2022年11月24日、2回

・研修の参加人数：放射線技師9名、医学物理士2名、看護師5名

24・研修の主な内容：造影剤使用に伴う副作用発言時の救急処置について

・研修の期間・実施回数：2022年11月30日、1回

・研修の参加人数：25名、看護師2名

25・研修の主な内容：診療用放射線照射装置の安全性および使用方法に関する研修

・研修の期間・実施回数：2022年12月3日～2023年12月8日、2回

・研修の参加人数：放射線技師9名、医学物理士2名、看護師5名

26・研修の主な内容：アフリキシーガイドライン 改定のポイントと対応、血管外漏出の実際と対策

・研修の期間・実施回数：2022年12月7日、1回

・研修の参加人数：26名、看護師1名

27・研修の主な内容：MRI造影剤腎症の実際、ビグアイド系薬剤との併用について

・研修の期間・実施回数：2022年12月14日、1回

・研修の参加人数：11名

28・研修の主な内容：肝細胞癌、肝がん診療ガイドライン、造影剤安全情報

・研修の期間・実施回数：2023年1月12日、1回

・研修の参加人数：26名、看護師1名

29・研修の主な内容：破裂動脈瘤治療

・研修の期間・実施回数：2023年1月16日、1回、（45分）

・研修の参加人数 放射線技師：6名 診断部看護師：4名 脳外科医師：3名

30・研修の主な内容：術前脳血管塞栓術

- ・研修の期間・実施回数：2023年1月30日、1回、（55分）
- ・研修の参加人数：放射線技師4名、診断部看護師4名、脳外科医師3名、医学生：2名

31・研修の主な内容：海綿静脈洞瘻治療

- ・研修の期間・実施回数：2023年2月6日、1回、（50分）
- ・研修の参加人数：放射線技師5名、診断部看護師4名、脳外科医師4名

32・研修の主な内容：MRI造影剤使用に伴う副作用発言時の救急処置について

- ・研修の期間・実施回数：2023年2月8日 1回
- ・研修の参加人数：10名

33・研修の主な内容：術前脳血管塞栓術

- ・研修の期間・実施回数：2023年2月20日、1回、（50分）
- ・研修の参加人数：放射線技師5名、診断部看護師5名、脳外科医師3名

34・研修の主な内容：海綿静脈洞瘻治療

- ・研修の期間・実施回数：2023年3月6日、1回、（50分）
- ・研修の参加人数：放射線技師5名、診断部看護師4名、脳外科医師4名

35・研修の主な内容：フローダイバーターステント

- ・研修の期間・実施回数：2023年3月20日、1回、（60分）
- ・研修の参加人数：放射線技師6名、診断部看護師6名、脳外科医師3名

36・研修の主な内容：造影剤の基礎と原理及び併用に注意する薬剤等について

- ・研修の期間・実施回数：2023年3月29日、1回
- ・研修の参加人数：23名、看護師1名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

○看護部

1. 看護管理

1) ラダーレベル研修「看護管理①～③」

- ・研修の主な内容：①メンバーシップ、②リーダーシップ、③目標管理
- ・研修の期間：①2022年9月16日午前・午後、11月18日午前・午後、②2022年10月27日午前・午後、③2023年1月13日
- ・実施回数：7回
- ・研修の参加人数：95名

2) ラダーレベル研修「安全①～④」

- ・研修の主な内容：①KYT・連関図、②連関図・SHELL分析、③事故防止のための対応策
- ・研修の期間：①2022年7月15日午前・午後、7月29日午前・午後、②6月3日、6月10日午前・午後、③9月30日、10月14日
- ・実施回数：9回
- ・研修の参加人数：145名

○薬剤部

1・研修の主な内容：新薬説明会

- ・研修の期間・実施回数：2022年5月23日、5月24日、5月25日、5月31日、6月1日、7月25日、7月27日、8月2日、8月3日、11月18日、2023年1月13日、1月16日、1月17日、1月23日、1月24日、1月

25日、1月30日、1月31日、2月3日、3月10日、3月20日、3月28日、計22回

・研修の参加人数：13人(5月23日)、10人(5月24日)、12人(5月25日)、15人(5月31日)、10人(6月1日)、10人(7月25日)、13人(7月27日)、10人(8月2日)、11人(8月3日)、11人(11月18日)、15人(1月13日)、13人(1月16日)、12人(1月17日)、10人(1月23日)、13人(1月24日)、12人(1月25日)、13人(1月30日)、10人(1月31日)、11人(2月3日)、9人(3月10日)、12人(3月20日)、10人(3月28日)

2・研修の主な内容：新人教育講座

・研修の期間・実施回数：2022年7月7日～2022年3月29日の期間に全30回

#### ○臨床工学部

1・研修の主な内容：[電気インピーダンススキャナEITシステム] 後学、適切な機器選定のための説明会（デモ）

・研修の期間・実施回数：11月10日、11月17日、11月18日、計3回

・研修の参加人数：臨床工学技士 20名

2・研修の主な内容：[自動体外式除細動器AED] 使用方法と管理方法、データ管理

・研修の期間・実施回数：11月8日、12月13日、計2回

・研修の参加人数：臨床工学技士 26名

#### ○中央検査部

1・研修の主な内容：新規入職者の教育

データベース入力方法、目標管理、不適合報告書の書き方、ISO 15189、気送管、環境、語句の選択、報告書の書き方、様式の使用方法など

・研修の期間：2022年4月18日～2022年12月15日

・実施回数：17回



・研修の参加人数：5名（臨床検査技師）

2・研修の主な内容：文書管理の教育

標準操作手順書などの内部文書の作成、改訂、登録、文書番号の付番、配付、受領、廃止の手順など

・研修の期間：2022年7月4日～2022年7月22日

・実施回数：13回

・研修の参加人数：117名（臨床検査技師）

3・研修の主な内容：サンプル等の二次利用残余廃棄物の教育

感染性廃棄物に対する基準、廃棄物の処理、医療用廃棄物専用容器回収、維持記録、サンプルや結果の二次利用についての手順など

・研修の期間：2022年7月7日～2022年7月19日

・実施回数：13回

・研修の参加人数：120名（臨床検査技師）

4・研修の主な内容：医療安全確保情報の更新について

・研修の期間：2022年8月17日～2022年8月30日

・実施回数：6回

・研修の参加人数：39名（臨床検査技師）

5・研修の主な内容：毒物劇物取り扱いについて

・研修の期間：2022年9月30日～2022年10月31日

・実施回数：20回

・研修の参加人数：116名（臨床検査技師）

6・研修の主な内容：検査部物品管理

- ・研修の期間：2022年10月18日
- ・実施回数：1回
- ・研修の参加人数：11名（臨床検査技師）

7・研修の主な内容：危機管理計画における施設見学

- ・研修の期間：2022年11月26日
- ・実施回数：1回
- ・研修の参加人数：16名（臨床検査技師）

8・研修の主な内容：『検査異常値・異常所見アラートシステム』の運用について

- ・研修の期間：2022年12月27日～2023年2月2日
- ・実施回数：7回
- ・研修の参加人数：31名（臨床検査技師）

9・研修の主な内容：採血手技が血液検査の測定値に与える影響

- ・研修の期間：2023年1月27日
- ・実施回数：1回
- ・研修の参加人数：58名（臨床検査技師）

○病理診断部

1・研修の主な内容：寄生虫疾患と寄生虫検査

- ・研修の期間：2022年6月29日
- ・実施回数：1回

- ・研修の参加人数：1名（臨床検査技師）

#### ○輸血部

- 1・研修の主な内容：産休からの復帰教育

- ・研修の期間：2022年4月26日～2022年5月20日
- ・実施回数：15回
- ・研修の参加人数：1名（臨床検査技師）

- 2・研修の主な内容：不規則抗体同定のための消去法の確認

- ・研修の期間：2022年12月15日～2023年1月19日
- ・実施回数：5回
- ・研修の参加人数：13名（臨床検査技師）

- 3・研修の主な内容：輸血部門システムの操作

- ・研修の期間：2023年3月23日～2023年4月6日
- ・実施回数：5回
- ・研修の参加人数：13名（臨床検査技師）

#### ○放射線部

- 1・研修の主な内容：超音波診断装置ViewMateZ23 ICEカテーテル

- ・研修の期間・実施回数：2022年5月9日、1回、（50分）
- ・研修の参加人数：放射線技師3名 診断部看護師8名、臨床工学技士13名、循環器医師2名

- 2・研修の主な内容：ボストン・サイエンティフィック AVVIGO新規採用説明

- ・研修の期間・実施回数：2022年8月30日～9月15日、3回（30分）

・研修の参加人数：放射線技師3名、臨床工学技士26名

3・研修の主な内容：バイオセーフキャビネット説明会

・研修の期間・実施回数：2022年8月30日、3回、（30分）

・研修の参加人数：放射線技師1名、診断部看護師7名

### ③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

#### ○薬剤部

1・研修の主な内容：将来を見据えた薬薬連携研修会

・研修の期間・実施回数：2022年7月29日

・研修の参加人数：17施設

2・研修の主な内容：薬科大学教員実務研修

・研修の期間・実施回数：2023年1月より開始、毎月4～5日/人

・研修の参加人数：5名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	2. 現状
管理責任者氏名	山本 謙吾 (病院長)
管理担当者氏名	糸井 隆夫 (副院長、診療部長) 菅野 義彦 (副院長、医療安全管理責任者、診療情報管理室長)、 池田 徳彦 (副院長、中央手術部長)、 高城 由紀 (副院長、看護部長)、 浦松 雅史 (医療安全管理室室長)、 竹内 裕紀 (医薬品安全管理責任者、薬剤部長)、 大野 芳正 (医療機器安全管理責任者)、 中澤 弘一 (臨床工学部長)、 渡邊 秀裕 (感染制御部長)、 石川 孝 (総合相談・支援センター長)、 伊藤 良和 (臨床研究支援センター長)、 阿部 信二 (卒後臨床研修センター長)、 天野 景裕 (生涯教育センター長)、 醍醐 象器 (事務部長、医事課長)、 松下 和之 (総務課長)、 宮澤 勝美 (人事課長)、 清水 敬一郎 (内部監査室長)

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	
		各科診療日誌	総務課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	診療情報管理室	
		看護記録	診療情報管理室	
		検査所見記録	診療情報管理室	
		エックス線写真	診療情報管理室	
		紹介状	診療情報管理室	
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療情報管理室	電子媒体の診療に関する諸記録は、厚生労働省「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に沿って、電子カルテサーバー内に保存、管理している。紙媒体の診療に関する諸記録は、24時間以内にスキャン取り込みし、電子認証・タイムスタンプ処理の上、電子カルテサーバー内に保存・管理している。診療記録は病院外への持ち出しを禁止している。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿		人事課
		高度の医療の提供の実績		各診療科、医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績		各診療科、研究支援課 臨床研究支援センター
		高度の医療の研修の実績		臨床研究支援センター
		閲覧実績		総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績		医事課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿		薬剤部

事項	規則 第一条の十一 第一項に掲げる	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	担当する各部門において、コンピューター又はファイル等により保管管理している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	担当する各部門において、コンピューター又はファイル等により保管管理している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部、臨床研究支援センター	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	診療情報管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	臨床研究支援センター
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	臨床研究支援センター
		監査委員会の設置状況	総務課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	総合相談・支援センター
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	内部監査室
		職員研修の実施状況	医療安全管理室 生涯教育センター
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室 薬剤部 臨床工学部 総務課
管理者が有する権限に関する状況	法人人事課 法人会計課		
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	内部監査室		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	法人総務部総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。



(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 山本 謙吾
閲覧担当者氏名	事務部長 醍醐 象器
閲覧の求めに応じる場所	・会議室
閲覧の手続の概要 病院宛若しくは病院長宛の公文書による依頼に基づき閲覧の申込みを受ける。 閲覧は関係する教職員の立ち会いを必要とする。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 1件
	地方公共団体	延 1件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>1. 目的</p> <p>この指針は、学校法人東京医科大学における医療安全に関する基本指針の趣旨に基づき、東京医科大学病院における医療の安全を確保するために必要な体制並びに医療事故及びインシデント発生時の対応方法を示し、もって良質で安全な医療提供に寄与することを目的とする。</p> <p>2. 基本的な考え方</p> <p>1) 質の高い医療を持続して提供するためには、安全管理体制のより一層の充実を目指す姿勢が重要である。この姿勢の確保は、全ての医療従事者の責務であり、全職員が医療の質の向上と安全の推進に取り組まなければならない。</p> <p>2) 病院長は、個人の努力に依拠する安全管理には限界があることを認識し、組織を挙げた安全管理体制の構築に努める必要がある。</p> <p>(1) 医療安全管理責任者</p> <p>(2) 医療安全管理委員会</p> <p>(3) 医療安全管理室</p> <p>(4) 医療安全管理者</p> <p>(5) 医薬品安全管理責任者</p> <p>(6) 医療機器安全管理責任者</p> <p>(7) 医療放射線安全管理責任者</p> <p>(8) 感染制御部</p> <p>(9) 総合相談・支援センター</p> <p>(10) 臨床研究支援センター</p> <p>3) 病院長は、前項各号に掲げる者又は部門の運営に係る事項を定める。</p> <p>4) 病院長は、医療安全管理責任者として、危機管理・教育担当の副院長をもって充てる。</p> <p>5) 医療安全管理責任者は、医療安全管理委員会、医療安全管理室、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者並びに医療放射線安全管理責任者又は部門を統括するほか、以下に掲げる業務を行う。</p> <p>(1) 医療安全管理体制を構築すること</p> <p>(2) 医療安全に関する職員への教育及び研修を実施すること</p>	

- (3) 医療事故等を防止するための情報収集、分析、対策立案及びフィードバック評価を行うこと
- (4) 医療事故等へ対応すること
- (5) 医療安全文化の醸成に資する活動を行うこと

### 3. 組織及び体制

- 1) 病院長は、「学校法人東京医科大学における医療安全に関する基本指針」第2条第2項各号に従い、次に掲げる者を任命し、又は部門を設置する。

### 4. 職員研修

- 1) 病院長は、医療安全への意識、多職種との連携業務の認識、業務の技能向上を目的として、医療に係る安全管理のための基本的な事項及び具体的な方策について、職員に対する研修を実施する。
- 2) 病院長は、医療法施行規則第9条の23第14号に規定する職員研修を実施する。
- 3) 病院長は、定期的に医療安全管理に係る研修を受講する。
- 4) 病院長は、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者並びに医療放射線安全管理責任者に、定期的に医療安全管理に係る研修を受講させる。

### 5. 報告等に基づく安全管理体制

全職員は、患者に望ましくない事象が発生した場合、又はその可能性を発見した場合には、別に定める規程に基づく報告をしなければならない。

### 6. 医療事故等発生時の対応

- 1) 全職員は、患者に医療事故等が発生した場合、患者の回復並びに患者及び家族等に対する情報提供に努める。
- 2) 病院長は、患者に医療事故等が発生した場合の対応に係る事項を定める。

### 7. 医療従事者と患者との情報共有等

- 1) 全職員は、患者等の個人情報保護を義務を負う。
- 2) 病院長は、個人情報保護に係る事項を定める。
- 3) 全職員は、患者が疾病や診療内容等を十分理解し医療上の意思決定ができるように、情報提供と説明を行う。
- 4) 全職員は、患者との情報共有に努める。

5) 病院長は、患者その他の病院利用者及び全職員がこの指針を閲覧可能とすること。

#### 8. 患者からの相談への対応

病院長は、患者からの相談に対応する部門を設置し、及び相談に関する手続きを定める。

#### 9. 高難度新規医療技術及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関する安全管理体制

1) 病院長は、高難度新規医療技術を用いた医療及び未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等を決定する部門を設置する。

2) 病院長は、高難度新規医療技術を用いた医療及び未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、職員が遵守すべき事項及び前項の部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成する。

3) 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合、関係学会の基本的考え方やガイドライン等を参考に実施する。

#### 10. 特定機能病院間の監査

1) 病院長は、他の特定機能病院の管理者と連携し、年に1回以上他の特定機能病院に従業者を立ち入らせ、必要に応じ、医療に係る安全管理の改善のための技術的助言を行わせなければならない。

2) 病院長は、年に1回以上他の特定機能病院の管理者が行う前項に規定する従業者の立入りを受け入れ、技術的助言を受けなければならない

### ② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況

- ・ 設置の有無（ 有 ）
- ・ 開催状況：年12回
- ・ 活動の主な内容：
  1. 医療事故等を防止するための体制を確立すること
  2. 医療事故等についての対応、情報収集、調査及び分析を指揮監督すること
  3. 職員に対して医療事故等に関する情報を提供すること
  4. 職員に対して医療事故等防止及び医療安全管理に関する教育をすること
  5. 医療事故等が医療事故調査制度における医療事故調査・支援センターへの報告を要するものか否かを判断すること
  6. 院内病因死因（Morbidity and Mortality）検討会（以下「M&M検討会」という。）に対して、前号の判断のために必要な情報を取りまとめて、報告書の作成を指示すること

7. 医療安全管理委員会の所掌する下部の委員会等から報告を受けること
8. 医療事故等が発生した際、事象の事実及び発生前の状況について、職員に医療安全管理室へ報告させること
9. 前号の規定による報告の実施状況を確認すること
10. 前号の規定による確認結果を病院長へ報告すること
11. 第8号に規定する実施の状況が不十分な場合、適切な報告のための職員への研修及び指導を行うこと
12. 重大な問題その他医療安全管理委員会において取り扱うべき問題が発生した場合、速やかな原因究明のための調査及び分析を行うこと
13. 前号の分析結果を活用し、医療安全の確保のための方策の立案、実施、職員への周知を行うこと
14. 前号の医療安全の確保のための方策の実施状況の調査及び必要に応じた方策の見直しを行うこと
15. その他医療安全一般に関すること

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年2回

- ・ 研修の内容（すべて）：

1) 医療法に定められた医療安全研修

- ・ 第1回「医療事故調査について」、「なるほど！感染対策－あすから役立つ情報とお願い」、「高齢者における薬物療法の注意点」、「医療機器安全研修 ～軽く見ないで輸液ポンプ・シリンジポンプ～」、「鎮静のきほんのキー－ライトな鎮静に潜む危険－」
- ・ 第2回「患者確認のルール、変わりました」、「環境整備と感染対策に役立つ情報」、「抗がん薬の血管外漏出について」、「意外と知らない！？酸素ボンベの正しい使用方法と注意点」、「放射線の安全利用」、「IP番号を聞き出そうとする不審電話に注意を」

2) 中途採用・異動・帰任・育児休業復職者研修

院内の医療安全・感染対策・個人情報保護・医薬品の取り扱い・医療機器の取り扱い・放射線の安全利用・接遇・マナーについてのルールなどを周知、共有する目的で中途採用者・帰任者に対し研修を実施している。研修はe-learningを活用し、受講状況・理解度について、生涯教育センターと協力し、情報の共有・管理を行っている。

3) 初期臨床研修医研修

初期臨床研修医に対し、医療安全管理室での研修を1日設け、医療安全の基礎、院内の医療安全に関する取組、薬剤の知識の講義及び院内巡視を実施している。

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( 有 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - 1) イン트라ネットでのインシデントの報告
  - 2) 日本医療機能評価機構への報告
  - 3) 医療事故防止および医療の質確保に関する活動
  - 4) 医療安全推進委員会（多職種混成チーム）による定期院内巡視と評価、および医療安全管理室の院内巡視（毎月1回）
  - 5) 情報の一元化（職員が知っておくべき共有ファイルの指定と管理）
  - 6) 職場安全会議を活用した多職種による合同カンファレンスの推進
  - 7) インフォームドコンセント時の複数立ち合いの推奨（看護師の立ち合いの推奨）
  - 8) 医療安全管理室ニュースレター、医療安全情報の配信による職員への周知
  - 9) 医療安全マニュアル、医療安全マニュアルポケット版の改定作業
  - 10) 3施設間医療安全相互ラウンドの実施

東京医科大学には3施設の病院がある。同系列病院として安全管理の質向上と相互理解、情報共有などを図る目的で、3病院医療安全相互ラウンドを実施している。3病院共有のマニュアル、報告制度などの検討を行っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 院内感染対策の基本的な考え方を示して、感染症発生防止に留意し、発生時には速やかな制圧を全職員で図る。</li> <li>2. 病院長直属の中心的な組織、感染制御部を設ける。</li> <li>3. 対策の病院全体への周知・実施を行っていくため、感染症対策委員会と感染対策小委員会の設置感染リンクドクター・リンクナースを配備する。</li> <li>4. 病院職員に対しては基本的な考え方や具体的な方策に関する研修会を開催する。</li> <li>5. 感染症に関する注意情報を随時発するとともに、院内における耐性菌の検出状況および抗菌薬適正使用状況を感染症対策委員会・診療合同会議・医局長会議・看護師長会議・職場安全会議等にて報告する。</li> <li>6. 感染症発生時には、職員はすみやかに感染制御部へ報告し、感染制御部は原因究明・改善策を検討する。検討した内容は感染症対策委員会で協議の上、各種会議等を通じ全職員に周知徹底する。</li> <li>7. 指針は患者その家族が閲覧できる。患者・家族にも感染防止の意義や手技を説明し協力を求める。</li> <li>8. 職員はマニュアルを遵守するとともに、自らの健康管理に留意する。</li> </ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 微生物検査室からの耐性菌分離レポートの集計結果による発生動向の把握と分析。</li> <li>2. 感染制御部ラウンド巡視状況の報告（対象：広域抗菌薬長期間投与例、病棟・外来環境ラウンド、耐性菌分離例、アウトブレイク事例等）</li> <li>3. 抗菌薬適正使用推進に関する対応（指定抗菌薬の届出状況、広域抗菌薬の使用状況、抗菌薬適正使用支援介入について、入院、外来、診療科での抗菌薬使用状況等）</li> <li>4. 感染制御部立案の具体的対策案について、各種職種代表者による審議。</li> <li>5. 対策案・注意喚起情報の職員への周知（診療合同会議・科長会議・看護師長会議・総医局会・中央診療部門の各部署での会議や院長通達、サイボウズや書面等による委員会からの情報発信など）。</li> <li>6. マニュアル・ガイドラインなど院内の感染対策に関わる規約等の最終決議。</li> </ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年42回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p>	

1. 新採用者オリエンテーション：院内感染対策組織・マニュアル、標準予防策、感染経路別予防策  
血液体液曝露事故（針刺し事故等）対応、手指衛生・個人防護具着脱演習、新型コロナウイルス感染症対策

2. 医療安全研修会：

1回目「なるほど!感染対策—あすから役立つ情報とお願い」

2回目「環境整備と感染対策に役立つ情報」

3. 定例研修会：

1回目「①みんな聞いて!!13B病棟手指衛生回数、高値の秘訣」

1回目「②交換している?その手袋」

1回目「③抗菌薬適正使用 うちの現状って、どうなのよ!？」

2回目「①東京医科大学病院のCDI検査の現状と注意点」

2回目「②血液培養検体について」

2回目「③感染症ポケットガイドを活用しよう!」

4. 感染リンクナース研修：感染リンクナースの役割、手指衛生5つのタイミングの理解、手指衛生直接観察法の理解、年間活動方針、定例データのフィードバック、手指衛生推進計画の共有、感染対策ラウンドチェック、トピックス（VRE/新型コロナ）年間評価、アウトブレイク事例の共有

5. 臨床研修医のためのレクチャー：感染症診療のフレームワーク、血液培養、微生物・抗菌薬培養検査とその解釈、感染症治療の評価

6. 委託業者への勉強会：

1回目：針刺しについて 1) 令和3年の針刺し結果 2) 針刺し防止対処・対策、標準予防策：手指衛生個人防護具の選択と着脱、グリッターバグ・リレー、新型コロナウイルス感染症対策

2回目：Ⅰ. 次亜塩素酸ナトリウムの使用についてⅡ. 感染対策について標準予防策：①手指衛生②個人防護具③咳エチケット④環境整備⑤血液体液曝露防止（針刺し事故防止）感染経路別予防策：①接触感染予防策②飛沫感染予防策③空気感染予防策、手指衛生

7. 中途採用・帰任者医療安全研修会：感染対策について



8. その他：ICTC（感染対策シミュレーションコース）研修（2系統：PPE編、手指衛生編）

PPE選択・着脱トレーニング

看護助手研修

新型コロナウイルス感染症について

（順次開催：内容：病態・対策・PPE着脱・院内マニュアル・ワクチン接種）

事務系職員へむけたグリッターバッグを用いての手指衛生チェック

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 （ 有 ）
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  1. 耐性菌発生を減らすための広域抗菌薬一定期間使用者リストアップ・血液培養陽性者/耐性菌検出者リストアップに対する現場のラウンドによる指導。
  2. 院内感染対策ラウンドによる基本手技、医療行為、病院環境のチェックと指導。
  3. マニュアルの見直し・検討・改訂。
  4. 感染リンクナースの年間活動計画に基づくグループ活動の実施。
  5. 感染リンクナースによる自己チェック表を用いた自己評価と改善活動報告。
  6. 各部署における耐性菌アウトブレイク値の設定に基づく早期介入。
  7. 人事課との協同によるワクチン接種プログラムの計画立案・実施・評価。
  8. 感染防止対策地域連携加算に関する連携医療機関とのカンファレンス（実施回数：4回）。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：</li> <li>1 新人教育研修：医薬品管理について(麻薬、向精神薬、特定生物由来製品 等)(年1回)</li> <li>2 院内医療安全研修会(年2回)</li> <li>・ 高齢者における薬物療法の注意点</li> <li>・ 抗がん剤の血管外漏出</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有)</li> <li>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</li> </ul> <p>手順書に基づくチェックシートを作成し、各部署での業務が適切に行われているかを薬剤師が確認している。病院全体および薬剤部については年2回、病棟および外来部門については月1回の確認を実施している。各部署における医薬品の在庫、使用期限の確認もチェック時に同時に実施し、適正な在庫管理に努めている。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)</li> <li>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)：</li> <li>・ 海外製各種感染症ワクチン製剤</li> <li>・ 海外製HIV治療薬および日和見感染症治療薬</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul> <p>医薬品の安全使用およびその他医薬品に関する情報は、厚生労働省、PMDA、製薬企業、学会、医療情報提供団体のWebサイト、新聞、雑誌等から入手し、必要に応じて加工し、院内に周知している。院内には月1回発行の薬剤部作成の情報誌を配布、および合同診療会議で内容の周知を行い、必要に応じて別途、院内に連絡文書を配布・配信および院内ポータルサイトで周知している。</p> <p>HBV再活性化のおそれがある医薬品を使用中の患者のスクリーニングを実施し、診療科に検査実施の依頼をしている。</p> <p>院内で発生した医薬品の副作用についての情報は、電子カルテ上での報告システムより収集する。</p>	

収集された副作用の情報は、医薬情報室にて管理し、薬事ニュースに掲載し院内に公開するとともにPMDAに報告している。

医薬品の適応外使用や未承認薬の使用については原則、診療科による医薬品適応外使用・禁忌評価部会および未承認新規医薬品等の使用に係る評価委員会への申請のより把握する体制を構築している。その他に医薬品安全管理に関する情報は、調剤業務、病棟薬剤師業務、医薬品安全使用のための業務手順書のチェックシート等により収集する。収集された情報は医薬情報室にて管理し、医薬品安全管理責任者等に報告している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年154回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1 人工呼吸器をはじめ特定管理医療機器の7種類（粒子線照射装置は保有していない）</p> <p>2 新規導入時の医療機器に対しての説明会や研修</p> <p>対象となる医療従事者に対して、安全性、有効性、使用方法、保守点検に関する事項、その他不具合が発生した場合の対応、使用に際し法令上、遵守すべき事項などについて実施。</p> <p>3 院内医療安全研修会（年2回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1回 医療機器安全研修 軽く見ないで輸液ポンプ・シリンジポンプ</li> <li>・ 第2回 意外と知らない？酸素ボンベの正しい使用方法と注意点</li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る計画の策定 （有）</li> <li>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</li> </ul> <p>人工呼吸器、人工心肺、補助循環装置、除細動器、血液浄化装置、閉鎖式保育器、高エネルギー放射線装置、輸液ポンプ、シリンジポンプなどに対して、年度計画に基づきメーカーによる年1回から2回の定期点検のほか、使用前・使用中・使用後点検等を臨床工学部内および医師・看護師・技師（技士）により実施している。また臨床工学部では中央管理業務の業務委託の導入を継続し、点検管理内容を見直しながら医療機器管理の質の向上を図っている。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有）</li> <li>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：無</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容：</li> </ul> <p>メーカーや日本医療機能評価機構、PMDA等から発出される情報の収集は関連部署、もとより医療安全管理室、臨床工学部、事務部資材課にて行われており、部門対象の機器については、当該部署の関係者へメーカーより報告。すみやかに情報を整理し医療機器安全管理者、医療安全管理室、場合によっては病院長へ報告、対応する。職場安全管理者会議においても、医療機器安全管理者（実務者）より回収情報や安全性情報、注意喚起また院内でどのように対処したのかを全職員へ周知する。ま</p>	

た重要度に応じて、医療安全管理室より緊急情報として発信される。医療機器の安全使用を目的とした改善の実施については、インシデント報告事例を分析し、院内研修などで周知している。また不具合報告書をもとに、関連部署への使用方法の再周知や医療機器の更新、新規採用に活かせるようデータ管理している。

【中央管理している医療機器の運用の見直し】

長期貸出として病棟に設置している、主に自動血圧計や稼働用モニター等はこれまで、年に1回程度点検していたが、運用の見直しを実施した。

貸出日数が30日以上経過した機器を【長期貸出機器】として回収し、安全に使用できるよう点検済みの機器を新たに貸出（交換）する。この運用は、行方不明の機器を減らすための資産管理も目的としている。長期貸出設置機器以外にも【一患者毎の使用】としている輸液ポンプ、シリンジポンプ、体外式ペースメーカー、カフ圧計等も機器管理システムで月2回チェックしている。

長期となっている機器は、貸出各部署にアナウンスしている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有
<p>・ 責任者の資格（医師）</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理責任者（医師）が、医薬品安全管理責任者、医療安全機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者、医療安全管理部門の出席する医療安全管理委員会に出席し、全体の業務を把握している。</p> <p>医療安全管理部門に医薬品及び医療機器安全管理実務者を介し連携するよう指示を出し、医療安全管理室において毎朝のミーティングで情報共有が行われていることに加え、検査部門及び放射線部門との連携も図るため、週1回の拡大ミーティングへの参加を指示している。</p> <p>また、有事の際は直接連絡がくる体制をとっている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（8名）
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p>	

医薬品の安全使用およびその他医薬品に関する情報は、厚生労働省、PMDA、製薬企業、学会、医療情報提供団体の Web サイト、新聞、雑誌等から入手し、必要に応じて加工し、院内に周知している。院内には月 1 回発行の薬剤部作成の情報誌を配布、および診療合同会議で内容の周知を行い、必要に応じて別途、院内に連絡文書を配布・配信および院内ポータルサイトで周知している。

・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況

国内未承認の医薬品を使用する場合には、事前に院内の委員会で審議対応が必要である。そのため、臨床研究支援センターや診療科から薬剤部に相談、連絡等がある。

・担当者の指名の有無（有）

・担当者の所属・職種：

(所属：薬剤部 ， 職種：薬剤師 ) (所属： ， 職種 )  
 (所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )  
 (所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )  
 (所属： ， 職種 ) (所属： ， 職種 )

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況

有

・医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( 有 )

・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：

[遵守状況の確認]院内診療記録監査 (1 回/年、6 件/科、全科)、説明同意書点検 (スキャン時/全件)、入院診療記録 (2 ヶ月分/年)、IC テンプレート点検等

[指導内容]院内診療記録監査 (説明の内容、患者の反応、同席者等) では報告書に基づき各科医局内で指摘事項を周知、診療情報管理委員会、診療合同会議にて IC 責任者・診療情報管理委員長が全体周知および指導を実施している。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

質的 point 点検：院内診療記録監査 (入院・外来各々 3 件/年、全診療科)、量的 point 点検：入院診療記録の医師退院時要約、手術記録、入院診療計画書、退院療養計画書、死亡診断書、剖検報告書、指導医カウ

ターサイン実施状況、IC テンプレート使用状況等

[指導内容]入院診療記録（記載不備等）では作成者・診療情報管理委員・病棟医長・科長へ督促、院内診療記録監査（診療録等の十分な記載）は報告書に基づき各科医局内で指摘事項を周知、診療情報管理委員会、診療合同会議を通じ院内全体に周知を行っている。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有

- ・所属職員：専従（9）名、専任（ ）名、兼任（1）名
  - うち医師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（1）名
  - うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名
  - うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

医療安全管理委員会、医療安全推進委員会、院内病院死因（M&M）検討会、職場安全管理者会議、CVライン管理部会、VTE 管理部会、院内救急対応委員会、看護師による静脈注射管理部会、侵襲的処置

- ・検査施行時の鎮静管理部会等

2) 事故等の発生時の対応

- ・診療録の確認、情報の収集
- ・患者への説明等の適切な対応、調整
- ・原因の分析、改善策の立案、職員への周知、改善策の実施状況の確認等

3) 死亡患者の確認

- ・死亡の事実確認、及び死亡に至るまでの状況の確認（定期的な病院長への報告）

4) 他の特定機能病院との連携

- ・都内私大病院安全連絡会議
- ・私立医科大学病院 医療安全相互ラウンド

5) 職員研修の実施

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（5件）、及び許可件数（5件）

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：

高難度新規医療技術による医療提供を行う場合は、診療科長より臨床研究支援センター先端医療管理部門（以下、部門）へ申請する。部門でその申請内容を確認の後に、高難度新規医療技術評価委員会（以下、委員会）へ評価を依頼する。委員会の意見に基づき、部門にて意見交換を経て部門の長（高難度医療技術を用いた医療の提供に関する経験及び知識を有する医師）が意見をまとめ適否を決定する。その結果を診療科長へ通知し、病院長へも報告する。診療科から部門へ医療提供予定を事前連絡の上、医療提供を行った場合は、実施報告、経過報告、有害事象が発生した場合の有害事象報告を診療科長が部門へ提出する。部門では報告内容を診療録で確認し、意見をまとめた上で診療科へ意見を伝えると共に病院長へ報告する。病院長から部門へ指示があった場合は、速やかに診療科へ伝える。部門内の意見交換の結果、委員会の再評価が必要と考えられた場合は、委員会へ評価依頼をして上記のプロセスを繰り返す。

- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有）

#### ⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有）
- ・活動の主な内容：

未承認新規医薬品等を用いた医療提供を行う場合は、診療科長より臨床研究支援センター先端医療管理部門（以下、部門）へ申請する。部門でその申請内容を確認の後に、未承認新規医薬品等に係る評価委員会または未承認医療機器に係る評価委員会（以下、委員会）へ評価を依頼する。委員会



の意見に基づき、部門にて意見交換を経て適否を決定する。その結果を診療科長へ通知し、病院長へも報告する。医療提供を行った場合は、実施報告、経過報告、有害事象が発生した場合の有害事象報告を診療科長が部門へ提出する。部門では医薬品安全管理責任者または医療機器安全管理責任者ととも報告内容を診療録で確認し、意見をまとめた上で診療科へ意見を伝えると共に病院長へ報告する。病院長から部門へ指示があった場合は、速やかに診療科へ伝える。部門内の意見交換の結果、委員会の再評価が必要と考えられた場合は、委員会へ評価依頼をして上記のプロセスを繰り返す。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 ( 有 )
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 ( 有 )

#### ⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 807 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 230 件
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
  - 1) 医療事故及び有害事象を防止するための体制の確立
  - 2) 医療事故等についての対応、情報収集、調査及び分析を指揮監督する
  - 3) 職員に対して医療事故に関する情報を提供する
  - 4) 職員に対して医療事故等防止及び医療安全管理に関する教育をする
  - 5) 医療事故が医療事故調査制度における医療事故調査・支援センターへ報告を要するものか否かの判断
  - 6) 院内病院死因 (M&M) 検討会に対して 5) の判断のために必要な情報を取りまとめて、報告書の作成を指示する
  - 7) 委員会が所掌する下部の委員会から報告を受ける
  - 8) 医療事故が発生した際、事象の事実及び発生前の状況について、職員に医療安全管理室へ報告させる
  - 9) 8) の規定による実施状況を確認する
  - 10) 8) の規定による確認結果を管理者へ報告する
  - 11) 8) に規定する実施状況が不十分な場合、適切な報告のための職員への研修及び指導を行う
  - 12) 重大な問題その他、医療安全管理委員会において取り扱うべき問題が発生した場合、速やかな

原因究明のための調査及び分析を行う

13) 分析結果を活用し、医療安全確保のための方策の立案、実施、職員への周知を行う

14) 改善のための方策の実施状況の調査と必要に応じた方策の見直しを行う

15) その他医療安全全般

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名：東海大学医学部附属病院））
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名：東海大学医学部附属病院））
- ・技術的助言の実施状況

実際の立ち入りを行わないWeb形式での相互評価を行い、下記の技術的助言を受け、対策を講じた。

【技術的助言の内容】

医療機器集中管理システムで把握ができれば良いが、購入場所等が別となると管理範囲から外れてしまう可能性がある。今後、医療機器の一括購入ルートとしてMEが全例で介入するような体制が構築できると良い。

【対応】

資材課で資産台帳を作成し、納入する機器に資産番号や設置部署等明記したシールを貼ってから現場へ設置という流れはあるが、情報が抜けてしまう機器もあるため、臨床工学部が全例で介入できるよう資材課と体制構築に向けた検討を行う。

【改善状況】

資材課と資産台帳を共有済み。臨床工学部の医療機器管理システムとの登録データのすり合わせを実施した。また年4回程度の医療機器安全管理委員会で、都度資材課より新規購入機器の報告があるため、データの更新を確認している。また、これまでに資材課検収シールを貼らずに現場へ納品されていた機器が存在したため、検収シール貼付確認の徹底を納品業者へ再周知し、検収シールに記載されている内容の重要性を院内で周知した。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
- ・総合相談・支援センターに患者相談窓口を設置し、専門の担当者が相談に応じている。
- ・相談内容は、平日毎日実施している多職種カンファレンスで共有。
- ・医療安全上の問題については、総合相談・支援センター副センター長を兼務している医療安全管

理室長が多職種カンファレンスに参加や適宜情報共有により、対応を協議している。

## ⑫ 職員研修の実施状況

### ・研修の実施状況

#### ○医療安全管理室

医療法に定められた医療安全研修

6月と11月に実施。対象は全職員であり、常勤・非常勤問わず受講対象とし、常勤の受講は必須としている。研修はe-learningによる受講とした。

#### ○生涯教育センター

##### 1) 中途採用・帰任者研修

中途採用者（派遣含む）と、帰任者（勤務最終月の翌月から6ヵ月を超えて離職している施設間異動、復職、産休・育休明けの職員）を対象に、東京医科大学病院 e-learning システムを用いて「医療安全」「感染対策」「薬品の取り扱い」「医療機器の取り扱い」「個人情報保護」「患者接遇」「医の倫理（臨床倫理）」に関する研修を毎月就業前に実施している。研修未受講者は院内の電子カルテシステムの利用ができない。研修内容については、毎年1回作成部署・担当者に確認し更新している。

##### 2) 初期臨床研修医研修（年12回）

初期臨床研修医に対し、医療安全管理室での研修を1日設け、医療安全の基礎、院内の医療安全に関する取り組み、薬剤の知識の講義及び院内巡視を実施している。

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

## ⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

### ・研修の実施状況

医療安全管理責任者：2023年1月26日：2022年度特定機能病院管理者研修（継続6時間）

医薬品安全管理責任者：2022年度特定機能病院管理者研修（継続・6時間）（2023年1月26日受講）

医療機器安全管理責任者（前任者2023年6月30日まで）：公益財団法人日本医療機能評価機構

[2022 年度特定機能病院管理者研修] 2023 年 2 月 24 日受講

管理者：2022 年度特定機能病院管理者研修（継続・6 時間）公益財団法人 日本医療機能評価機構  
(2023 年 1 月 26 日)

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

2023 年 3 月 16 日～18 日 公益財団法人 日本医療機能評価機構

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

「審査結果報告書」の通知が未達である。

・ 評価を踏まえ講じた措置

病院機能評価による中間的な結果報告にて、

①安全確保に向けた情報収集と検討については、適切に取り組まれているとの評価であったが、院内死亡例の報告の仕組みについて課題とされた。

②患者等の急変時に適切に対応していることについては、適切に取り組まれている評価であるが、RRS 体制について見直すように課題が出された。

2023 年 8 月 10 日に上記機関による「補充的な審査(訪問による審査)」を受審し、①については、「死亡患者報告書」を診断書作成時に報告するシステムを構築した。②については、運用フローを修正し、主治医だけではなく、RRS 担当にも相談するよう変更するとともに、EWS を活用した急変前患者スクリーニングの活用を開始したことを説明。

口頭ではあるが、良好であることの評価をいただいた。現在、「審査結果報告書」の通知が未達であり、改善については、構築、見直しの段階で周知し、運用をしている。

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基準の主な内容</li> </ul> <p>東京医科大学病院長、茨城医療センター病院長及び八王子医療センター病院長選出規程第5条で、次のとおり規定している。</p> <p>病院長は、次に掲げる要件を満たす者とし、選考委員会は、具体的な選考基準（病院長に求められる資質・能力）を策定し、公表するものとする。ただし、特定機能病院の病院長を選考する際には、第3号及び第4号のカッコ書に記載された事項を選考基準に含めるものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>臨床研修修了医師であること。</li> <li>心身ともに健全であること。</li> <li>人格が高潔で、組織管理能力等病院の管理運営に識見を有すると認められること（病院内外での組織管理経験）。</li> <li>医療安全確保のための必要な資質・能力を有していると認められること（医療安全管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力）。</li> <li>過去3年以内に停職以上の懲戒を受けていないこと。</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>基準に係る内部規程の公表の有無（有）</li> <li>公表の方法</li> </ul> <p>選考時にホームページに掲載</p>
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	無			
<ul style="list-style-type: none"> <li>選考を実施した場合、委員会の設置の有無（無）</li> <li>選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（無）</li> <li>選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（無）</li> <li>公表の方法</li> </ul>				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係

				有・無
				有・無
				有・無

規則第9条の2 3 第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有		
<p>・合議体の主要な審議内容          病院管理会議において、「経営戦略」及び「病院運営」の二つの要素から構成する。「病院運営」については、病院の最高協議体として、病院の運営・経営管理上必要となる諸事項を審議し、決議する。また、その執行にあたり、病院長を補佐する。</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況          議事を記録し、委員へ配布するとともに、各委員会へ審議結果を下ろし、従業員へ周知が必要な事項については、文書、掲示板などを利用して周知する。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有）</p> <p>・公表の方法          院内ポータルサイト、掲示による公表</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（無）</p>			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
山本 謙吾	○	医師	病院長（常務理事）
池田 徳彦		医師	副院長
糸井 隆夫		医師	副院長
菅野 義彦		医師	副院長
高城 由紀		看護師	副院長 (看護部長)
石川 孝		医師	病院長特別補佐 (医療・企業連携担当)
渡邊 秀裕		医師	病院長特別補佐 (感染対策担当)
遠藤 健司		医師	病院長特別補佐 (手術部支援担当)
醍醐 象器		事務	事務部長 (医事課課長・ 経営企画室長兼務)
松村 一		医師	情報システム室長
鈴木 亮		医師	健診予防医学センター長
相澤 卓		医師	医療保険室長
稲垣 太郎		医師	総医局会長
梶 良恵		看護師	医療安全管理者

竹内 裕紀		薬剤師	薬剤部長
内田 健二		技師	放射線部技師長
上道 文昭		技師	中央検査部技師長
山田 眞由美		技師	臨床工学部技士長
関谷 健太郎		事務	医事課専課長補佐 (入院)
相坂 琢磨		事務	医事課専門員 9 種 (入院)
芝崎 雅也		事務	医事課課長補佐 (外来)
葉澤 義成		事務	医事課専門員 9 種 (外来)
三島 修		事務	会計課長
宮澤 勝美		事務	人事課長
岡田 親		事務	資材課長
杵 直樹		事務	施設課長
松下 和之		事務	総務課長
鎌田 智恵子		看護師	看護部 副看護部長 病床コントロール担当
細田 裕子		事務	総合相談・支援センター (入退院) 専門員
内野々 正志		事務	総合相談・支援センター (統括) 専門員
田中 薫		事務	総合相談・支援センター (医療連携) 係長
酒井 誓一		事務	広報・社会連携推進 室 専門員(法人本部)
那須 友里恵		事務	医療保険室 専門員
阿部 優子		事務	予約診療センター (メディカーサ) 専門員
小林 靖		事務	健診予防医学センター 専門員 9 種
田村 昌久		事務	手術部支援室 専門員
齋藤 豊		事務	診療情報室 専門員
伊藤 良和		医師	臨床研修支援センター
中澤 弘一		医師	集中治療部副部長
相内 敦子		看護師	集中治療部師長



規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有）
- ・ 公表の方法

ホームページ、規程集、学報

- ・ 規程の主な内容  
(人事)

東京医科大学病院就業規則、学校法人東京医科大学職員任免規程等で、管理者が、病院の管理運営に必要な指導力を発揮するために、管理者(病院長)が推薦・申請を行い、理事長(理事会)の承認または理事長(理事会)への報告により昇任、異動等を実施している。また、理事長が任免権を施設の長(病院長)に委任することで、管理者による必要な人事を実施している。

教育職員の採用、異動等は、各病院長が出席する人事審査会で、各病院の診療科の人員構成、定員の充足状況を思慮しながら、円滑な業務が遂行できるよう審議のうえ決定している。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

【職名】副院長

【役割】病院長を補佐（手術室運営・働き方改革担当、診療担当、医療安全・危機管理担当、多職種連携担当）

【職名】病院長特別補佐

【役割】病院長の特命事項に係る調査、企画等を担当（医療・企業連携担当、感染対策担当、手術部支援担当）

【職名】診療部長

【役割】病院長の指示に従い診療部門を統括

【職名】経営企画室長

【役割】病院経営の改善に係る企画立案及び実施他

【職名】医療安全管理室長

【役割】医療安全部門の統括

**【職名】** 感染制御部

**【役割】** 感染制御部門の統括

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

**【人事・研修等による措置】**

接遇責任者研修、コンプライアンス研修、ハラスメント防止研修、医療安全研修、階層別研修（新人、主任、係長、管理職）、若手職員（3～7年目）研修

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況					有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 監査委員会の開催状況：年2回</li> <li>・ 活動の主な内容：               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 医療安全管理者、医療安全管理室、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療放射線安全管理責任者、感染制御部等の業務状況について病院長等からの報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施すること。</li> <li>(2) 必要に応じて理事長、又は病院長に対し医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見を上申すること。</li> <li>(3) (1)(2)に掲げる業務について、その結果を公表すること。</li> </ol> </li> <li>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有）</li> <li>・ 委員名簿の公表の有無（有）</li> <li>・ 委員の選定理由の公表の有無（有）</li> <li>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（有）</li> <li>・ 公表の方法：大学・病院ホームページ</li> </ul>					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
落合 和徳	医療法人社団 三成会 新百合ヶ丘総合病院 常勤顧問	○	医師としての実績と医療安全に関する豊富な経験を持ち合わせているため	無	1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
安原 幸彦	東京南部法律事務所 弁護士		弁護士として医療の法律に関する豊富な実績と経験を持ち合わせているため	無	1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
桑原 公平	西新宿六丁目町会 会長		医療を受ける者として長年当院を受診されているため	無	2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

監事の業務監査として、期中監査において、会議の議事録の閲覧等を行い、法令等に適合しているかを確認している。

また、期末監査においては病院長の出席を求め、監事からの病院業務に関する質問、指摘、意見等に対して、病院長に直接、回答、説明を求め、また、詳細については、関係部署の責任者の説明を受けることにより、管理者である病院長の業務が法令等に違反することなく適正、公正に行われていることを確認している。

併せて病院業務における課題、改善に向けた意見、提言等を提示している。

法人本部の監事室は、監事の業務を補佐し、内部監査室は、業務プロセスに係る内部監査を実施し、病院長の業務が法令等に違反することなく適正、公正に行われていることを確認し、改善に向けた意見を提示している。また、監事、内部監査室、会計監査人による三様監査部門会議を定期的開催し、各々の監査状況の報告、問題点の確認、改善策の検討を行っている。

- ・ 専門部署の設置の有無（有）
- ・ 内部規程の整備の有無（有）
- ・ 内部規程の公表の有無（有）
- ・ 公表の方法

大学のホームページ

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況

- ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況

病院の管理運営状況を監督する会議体として理事会、業務連絡会がある。

理事会、業務連絡会ともに理事を構成員として組織し、理事の業務執行状況の監査のため、監事も同席している。

理事会は原則月1回定例に開催するほか、必要に応じ臨時にも開催され、法人における最高決定機関と位置付けられており、法人の一切の業務を決し、理事の職務執行を監督する。

定時理事会には、病院長は職責理事として、病院の管理運営状況等の報告がされる他、予算・決算等に代表される法人の管理運営に係る重要事項全般を審議する。

業務連絡会は、理事長の職務執行に当たっての協議機関として、常任役員会から付託された事項及び理事会、評議員会に提出する案件について協議している。また、非常勤理事に対し法人の運営状況をより深く理解してもらうための役員研修も実施している。法人運営に関する事項の議決権は有していない。

- ・ 会議体の実施状況

(2022年度:22回、2023年度(8月末まで): 9回)

- ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数 ( 有 )

(2022年度:21回、2023年度(8月末まで): 9回 )

- ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無 ( 有 ) : 寄附行為、業務連絡会規程

- ・ 公表の方法

大学ホームページに掲載

病院の管理運営状況を監督する会議体の名称 :

会議体の委員名簿

氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有）</li><li>・ 通報件数（年0件）</li><li>・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（有）</li><li>・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有）</li><li>・ 周知の方法</li></ul> <p>本学ホームページ、学報、医療安全マニュアルへの掲載、研修会での周知、携帯カードを全員に配付</p>

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有
・ 情報発信の方法、内容等の概要 ○ホームページ、冊子 (病院案内) による情報発信 ○市民公開講座、少年少女医学講座を実施	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 (1) 脳卒中センター 脳卒中に関連する診療科 (脳神経外科、脳神経内科、高齢診療科、救命救急センター) が連携し、あらゆるタイプの脳血管障害に迅速に対応する体制を整えている。ひとつのチームとして定期的に合同会議を行い、脳卒中患者の情報を共有して総合的に治療にあたる。  (2) 口唇口蓋裂センター 口唇口蓋裂に関連する診療科 (歯科口腔外科・矯正歯科、形成外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、小児科・思春期科、産科・婦人科) が連携して対応している。ひとつのチームとして定期的にカンファレンスを行い、患者さんの情報を共有しながら治療にあたる。  (3) 認知症疾患医療センター 認知症疾患に関連する診療科 (高齢診療科、メンタルヘルス科) の認知症専門医が問診、神経心理検査、血液検査、画像診断、時に脳脊髄液検査などを施行し、認知症の早期診断と鑑別を行う。	



#### (4) 遺伝子診療センター

遺伝子疾患に関連する診療科(小児科・思春期科、産科・婦人科、臨床腫瘍科、循環器内科、臨床検査医学科、皮膚科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科)が、遺伝学的診断と遺伝性疾患に関する遺伝カウンセリングを行っております。本人や家族の遺伝性疾患に関する疑問、心配、不安に関してのご相談に、臨床遺伝専門医が関連各科と連携したチーム医療で対応する。

#### (5) 細胞再生医療センター

細胞再生医療に関連する診療科(心臓血管外科、歯科口腔外科・矯正歯科、皮膚科)が、再生医療を法令遵守の下、安全で迅速に、効率的に臨床現場に提供することを目的としたセンター。

#### (6) 聴神経腫瘍・頭蓋底腫瘍センター

聴神経腫瘍・頭蓋底腫瘍に関連する診療科(脳神経外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科)が、豊富な手術経験、手術の技術、術中脳神経モニタリング、術前・術後の専門的な種々の検査、術前の腫瘍塞栓を行う脳血管内治療チームをそろえたセンター。

#### (7) 炎症性腸疾患・良性腸疾患センター

当院では消化器内科、小児科において主にIBDの診療を実施し、その中で手術対象例は消化器外科・小児外科で治療を行う。専門性の高い難病の炎症性腸疾患と良性腸疾患に特化した内科、外科および小児科の三科医師による円滑かつ密接した診療体系を構築し、専門の専属薬剤師、管理栄養士、臨床心理士と連携を密にすることで、薬剤の説明や栄養指導、メンタルケアを重点的に行い、より患者さんに適切で安全な医療を提供する。

#### (8) 膵臓・胆道疾患センター

診断・手術だけでなく、放射線治療、化学療法、血管内治療、病理診断、緩和医療など、一人一人の患者さんの状態に応じた最適な診断・治療を行う必要があるため、消化器内科、消化器外科

・小児外科、さらには放射線科、臨床腫瘍科、病理診断科の専門医が定期的にカンファレンスを行い、個々の患者さんの病態に応じた最良の医療を行う。